Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

「魅力ある観光地域づくり推進モデル事業」

佐賀県唐津市

実施報告書

平成 29 年 3 月

公益社団法人 日本観光振興協会
JAPAN TRAVEL AND TOURISM ASSOCIATION

ー 目 次 ー

１．本事業の趣旨 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

２．モデル地域の選定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

３．事業実施の手順 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
（１）観光地総合診断調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
（２）地域協議会による検討 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
（３）専門家の派遣 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
（４）事業の実施 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
（５）事業報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

４．地域の概要（佐賀県唐津市） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

５．観光地総合診断調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

６．地域協議会での検討 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

７．検討すべき事業計画の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
（１）新しい魅力づくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
（２）情報発信・話題づくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
（３）受入環境づくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

８．実施した事業の概要と検証 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
（１）新しい魅力づくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
（２）情報発信・話題づくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
（３）受入環境づくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

９．モデル事業のまとめと今後の課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
（１）地域協議会による自己評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
（２）アドバイザーによる専門家評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

◆参考資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　39
＊事業申請書　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　40
＊本モデル事業の実施フロー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　48
＊観光地総合診断調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　49
　1.観光を取り巻く状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　49
　2.観光の取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　68
　3.総合診断　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　86

１．本事業の趣旨

観光立国の実現には、各地域が新しくかつ特色ある観光の魅力を創出するイノベーションが急務であるが、地方財政が逼迫する中で思い切った事業改革や次世代を見据えた観光地域づくりに向けた取組を行うには、関係箇所が多く常に調整しながら柔軟な発想で事業を進める必要があり、その重要性が自覚されながらも着手しがたい状況にある。

本モデル事業では、そのような地域の実情に応じて、観光地総合診断調査や専門家からのアドバイスを元に、地域が主体となって事業計画を策定するとともに事業を実施し、その事業費の一部を当協会が負担するものである。これらを通じて地域内における観光地域づくり推進のための協力・連携体制を構築するとともに、魅力ある観光地域づくりに向けた事業の実現可能性を探ることを目的としている。

２．モデル地域の選定

本モデル事業では、熱意をもって観光地域づくりに取り組んでいる地域の中から申請のあった地域について、専門家等からなる「観光地域づくり検討委員会（以下検討委員会」という）を開催し、地域を評価・選定した。

その結果、平成 27 年度・28 年度に支援する地域として、青森県弘前市・兵庫県神戸市有馬温泉・佐賀県唐津市の３つの地域が選定された。以下、佐賀県唐津市について選定理由を記述する。

●佐賀県唐津市

【選定理由】

明確な観光戦略の策定がないことや豊富な観光資源が充分に活かされていないことなど、問題意識が明確であり、課題を解決するためにプラットフォームを設立したが、組織の設立にとどまらず、地域の意識改革と人材育成の重要性を理解しており、併せて取り組む姿勢を評価した。本モデル事業においても、「将来の観光振興の中心となる人材の育成」は、はじめて取り組むテーマであり、モデル性が高い点も評価し、選定した。

３．事業実施の手順

次に、選定された地域を対象として、以下の調査・支援フレームに基づいて事業を進める。（本モデル事業の実施フロー図参照）

（１）観光地総合診断調査（第 1 段階）

当協会は、地域にすでにある観光振興計画や観光関連統計等の文献調査、現地での観光資源・施設の現況調査、行政や観光協会・観光事業者等へのヒアリング調査により、観光地域総合診断を実施する。これにより、現段階の観光振興計画の妥当性、課題等を抽出する。

（２）地域協議会による検討（第 2 段階、現状の認識から事業計画承認まで）

地域では、行政、観光協会、本事業の計画や実施の際に当事者となる事業者や地域住民等からなる地域協議会を設立する。地域協議会は、本モデル事業に主体的に取り組み、専門家のアドバイスを受けながら事業計画を策定し、構成メンバーでの合意を得て決定することとする。また、構成メンバーが中心となり、責任を持って事業計画を実施する。

（３）専門家の派遣（第 2 段階、現状の認識から事業計画承認まで）

協議会では、観光地域総合診断調査で明らかとなった課題等を共有した上で諸条件や優先順位を整理し、新しい事業計画案を策定する。

なお、事業計画案策定にあたっては、当協会は、知見に基づいたアドバイスを行うことのできる専門家を派遣する。専門家の派遣回数や協議会の開催回数などは、地域の実情や計画案の進捗状況に応じて決定することとする。

地域で決定した事業計画案は、検討委員会に報告し、承認を得ることとする。

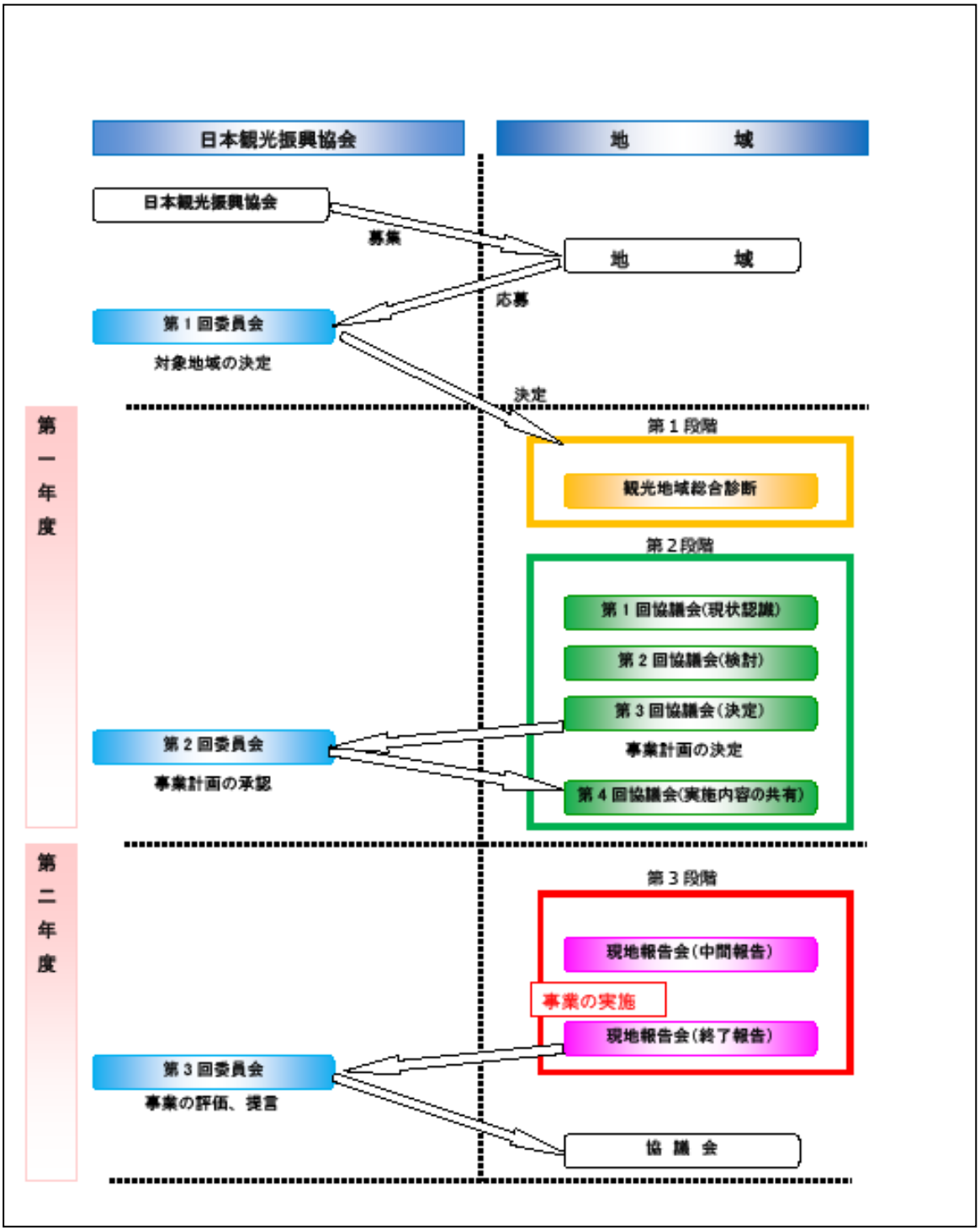
（４）事業の実施（第 3 段階、事業の実施から事業の評価まで）

地域は、委員会で承認された事業計画案に基づき事業を実施する。当協会は事業費の一部を支援する。事業の実施にあたり、地域は、当協会が派遣した専門家のアドバイスを受けつつ、進捗確認、検証、フィードバックを行い、常に事業活動の PDCA サイクルを意識しながら柔軟かつ円滑に事業を進めてゆく。

（５）事業報告

事業計画の実施期間中は、検討委員会へ中間報告を行いアドバイスを受け事業に反映する。事業終了後は本モデル事業の評価・検証を行い、本モデル事業終了後を展望して最終報告をとりまとめる。

図．本モデル事業の実施フロー



４．地域の概要（佐賀県唐津市）

■唐津市の観光を取り巻く状況

（１）観光特性

①立地特性

・唐津市は、九州の西北部・玄界灘に接して位置している。行政区域は東西方向に約３０ｋｍ、玄界灘～唐津湾の海岸線から内陸部に約３ｋｍから約１５ｋｍの区域であり、唐津湾を囲むような形状(面積約 487.54㎢)となっている。

・周辺都市には福岡・博多、伊万里、有田、佐世保、ハウステンボス、武雄、嬉野、長崎などの観光都市・観光地があり、主要交通網も充実していることや、豊富な観光資源の存在（後述）から、福岡・博多～長崎間の広域観光移動のルート上に位置している。

・この立地位置を唐津市から見ると、福岡・博多の大都市、武雄や嬉野の温泉地、焼き物で有名な伊万里・有田、歴史的観光都市長崎などへのアクセスの利便性に優れていることが指摘できる。

・人口１５０万人を擁する福岡市と唐津市間は、車で約１時間程度の時間距離にあり、福岡市からは日帰り観光の対象地との性格も有している。

・唐津市の人口は、約 126,700 人（平成２７年６月）であり、唐津市の独自推計によれば、平成５２年には約 84,100 人（３４％減）となると推計されている。

②自然特性

・唐津市は、海山川平地の多様な自然風景を有している。海は、唐津湾の穏やかな海をはじめ、玄界灘の波濤が打ち寄せる松浦半島海岸部の海、松浦半島沿岸部の入組んだ海岸線湾内の湖面のような海など、“静”および“動”の表情豊かな海の風景を見ることができる。

・また唐津市は、６つの島があり、湾のほぼ中央に高島、東松浦半島を取り囲むように神集島、小川島、加唐島、松島、馬渡島、向島が位置している。

・なお本市の海岸部一帯は全て玄海国定公園に指定されており、波戸岬、松浦半島海岸部、虹の松原、鏡山などは、玄海国定公園第１種～第２種特別地域に指定されている。

・山地は、御椀を伏せたような形状が特徴的な標高約 280mの鏡山をはじめ、南側の行政界には標高 1046mの天山や標高 763mの八幡岳の山など、唐津市は特徴的な稜線を持つ山地の風景を有している。

・河川は、渓流風景が魅力の滝川から広い川幅に緩やかに流れ、シラウオでも有名な下流の玉島川の風景や、アユも生息する厳木川および徳須恵川を上流として、唐津市の中心部を約４００ｍ程度の川幅に、唐津城を背景に唐津湾へと滔々と流れる松浦川の風景などを有している。
・平地は、南側の山地形を背景として、松浦川流域を中心に唐津湾に面して広大に広がっており、唐津湾および松浦川の河口付近に唐津市の中心部がある。

③観光資源
・唐津市の観光資源について見ると、地域の歴史、自然、文化の蓄積を背景に多種多様な観光資源が豊富に存在している。
・主な観光資源について、唐津市発行の「唐津観光ガイド&マップ」では、特別名勝　日本三大松原「虹の松原」、「唐津城」、伝統工芸「唐津焼」、日本三大朝市「呼子の朝市」、呼子名物「イカの活き造り」、棚田百選「棚田」、天然記念物「七ツ釜」、国指定重要無形民俗文化財「唐津くんち」、国の特別史跡「名護屋城跡並びに陣跡」などが紹介されている。
・なお虹の松原は、「Excellent　JAPAN 美しき日本　いちどは訪れたい日本の観光資源」（１９９９年（財）日本交通公社発刊）で、我が国を代表する観光資源３９１件のひとつとして選定・紹介されている。

主な観光資源（抜粋）

地区・名称		概　　要
唐津	旧高取邸	約 2,300 坪の敷地に建つ、炭鉱主であった高取伊好（これよし）の旧邸。和風を基調としながら洋間をあわせ持つ近代和風建築で国指定重要文化財。
	旧唐津銀行	辰野金吾の弟子田中実が設計、辰野金吾が監修した歴史的建築物。明治４５年に竣工し、平成９年まで銀行として営業された。
	宝当神社	宝当の名前から、多くの宝くじファンが訪れる神社。高島にある。
	曳山展示場	唐津くんちの曳山が展示されている展示場。
	七ツ釜	玄武岩でできた溶岩台地に海食でできた七つの洞窟。玄界灘の波がよせる風景に七つの洞窟が並ぶ国の天然記念物。
	末盧館	日本稲作発祥の地である菜畑遺跡の展示施設。日本稲作発祥の地「菜畑遺跡」に立地。
	唐津城	唐津の初代藩主寺沢志摩守広高により築城された城。現在の唐津城は昭和４１年に復元された。

５．観光地総合診断調査の概要

（１）観光特性

①立地特性

・唐津市は、広域観光移動ルート上に位置、周辺都市間のアクセスが容易。
・歴史・文化・自然など唐津らしさ・唐津ならではの観光資源が豊富に存在。
・人口１５０万人を擁する福岡市と唐津市間は、車で約１時間程度の時間距離にあり、福岡市からは日帰り観光の対象地との性格も有している。
・唐津市の人口は、約 126,700 人（平成２７年６月）。
・平成５２年には約 84,100 人（３４％減）となると推計されている。

②自然特性

・唐津市は、海山川平地の多様な自然風景を有している。海は、唐津湾の穏やかな海をはじめ、玄界灘の波濤が打ち寄せる松浦半島海岸部の海、松浦半島沿岸部の入組んだ海岸線湾内の湖面のような海など、“静”および“動”の表情豊かな海の風景を見ることができる。

③観光資源

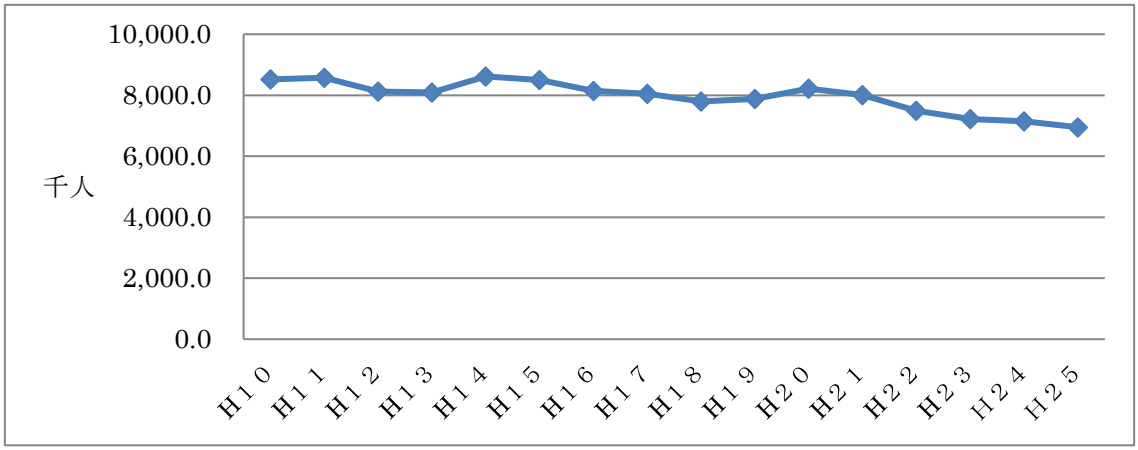
・特別名勝日本三大松原「虹の松原」、「唐津城」、伝統工芸「唐津焼」、日本三大朝市「呼子の朝市」、呼子名物「イカの活き造り」、棚田百選「棚田」、天然記念物「七ツ釜」、国指定重要無形民俗文化財「唐津くんち」、国特別史跡「名護屋城跡並びに陣跡」など地域の歴史、自然、文化の蓄積を背景に多種多様な観光資源が豊富にある。

（２）観光客の状況

①日帰り観光客数の状況

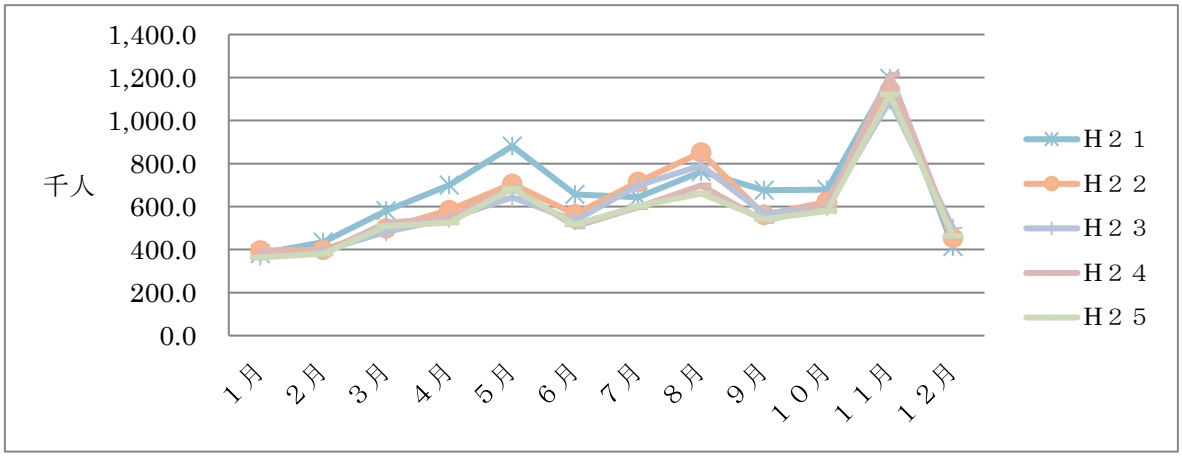
・ここ数年は７００万人程度で推移ないしはやや減少している様子がうかがえる。

唐津市の日帰り観光客の推移



・月別の変動を見ると１月から４月に向けて観光客は増加傾向にあり、６月にいったん減少後、７月から８月にかけて再び増加傾向を示し、「唐津くんち」が開催される１１月に急激な増加がある。

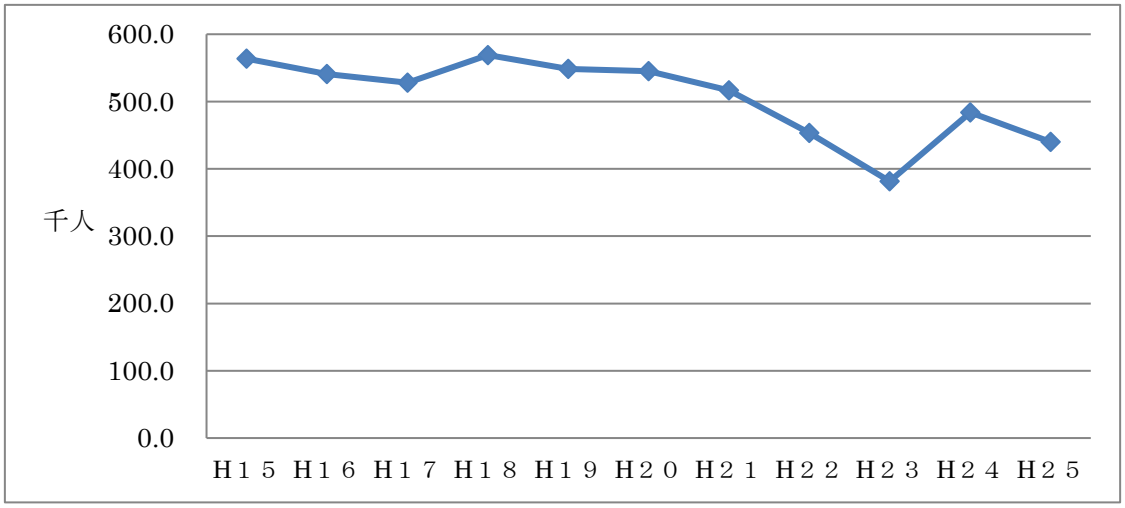
月別日帰り観光客数



②宿泊観光客数の状況

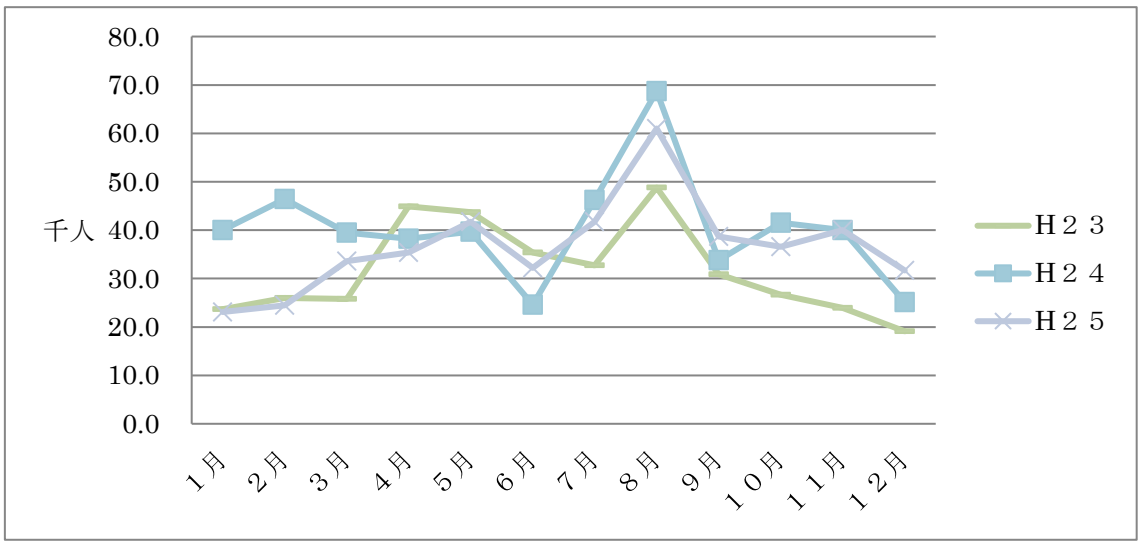
・宿泊観光客数については、平成２４年に５０万人近くの宿泊客数があり前年より約３割程度増加したが、平成２５年には約４４万人と前年から１割程度減少している。

唐津市の宿泊観光客数の推移



・月別の宿泊客数の変動を見ると、いずれも８月の宿泊客数が最も多い様子がうかがえ、次に多い宿泊客数は４月、５月、１０月、１１月の春と秋にある様子がうかがえる。

月別宿泊観光客数

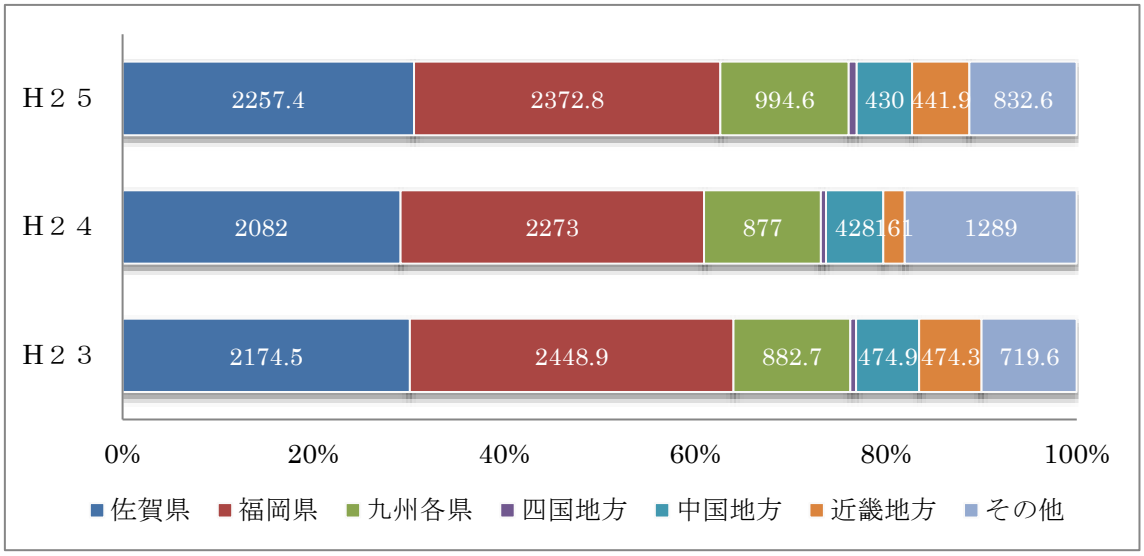


③発地別観光客数の状況

・発地別観光客数の状況を見ると、いずれの年も佐賀県内および福岡県を発地とする観光客数の割合がそれぞれ３割程度、合計でほぼ６割程度を占めている状況にある。

・次いで、佐賀県および福岡県を除く九州各県となっており、これらを合わせた九州地方を発地とする観光客数が全体の約８割近くを占めている。

発地別割合



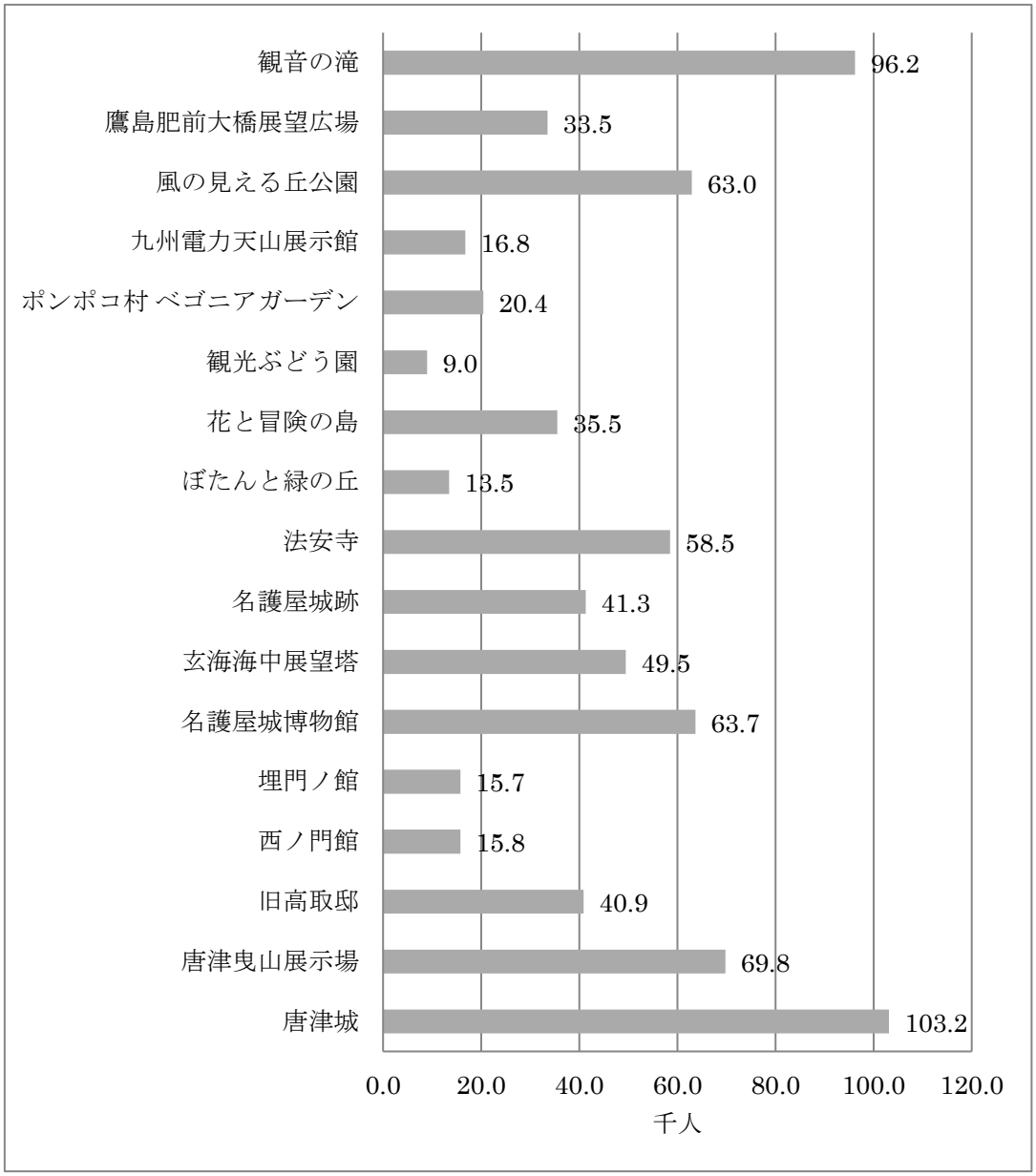
グラフ中の数字単位：千人

④観光地点別入込数

・観光地点別の観光入込客数について見ると、観光資源・施設では唐津城が最も多く、約１０万人、次いで観音の滝が９万６千人となっている。

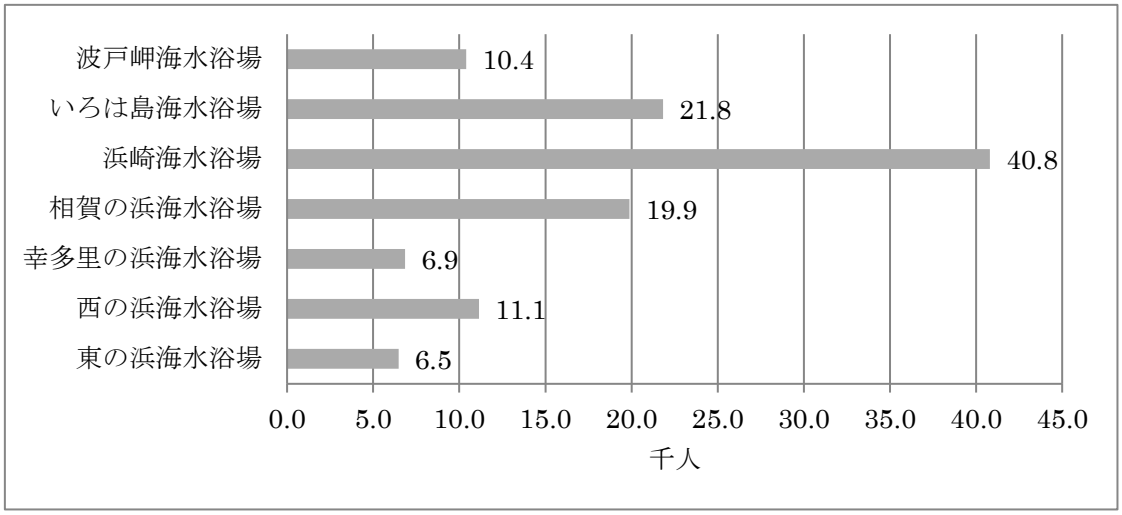
・さらに、風の見える丘公園、名護屋城博物館、唐津曳山展示場で、６万人代の入込がある。

観光資源・施設別入込（平成２４年）



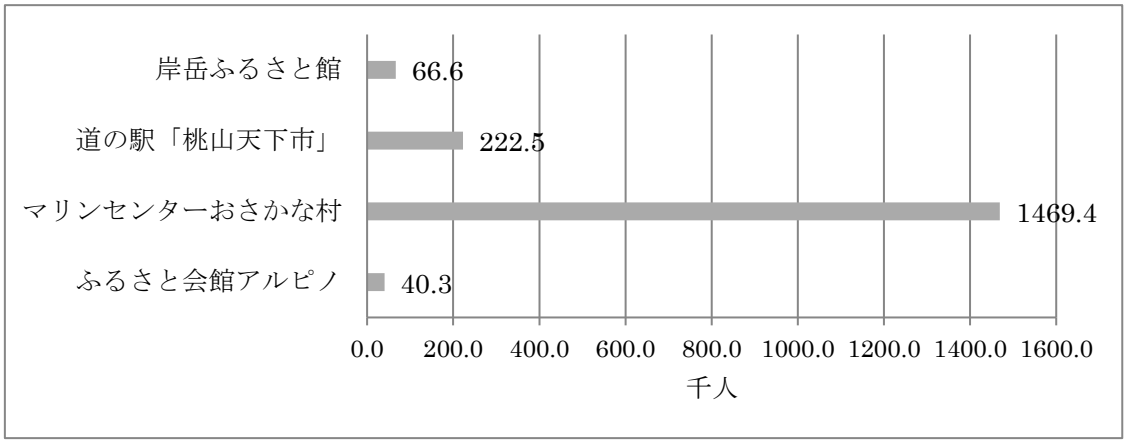
・海水浴客の入込は、浜崎海水浴場が最も多く約４万人と特化しており、次いでいろは島海水浴場が約２万２千人、相賀の浜海水浴場が約２万人となっている。

海水浴客入込（平成２４年）



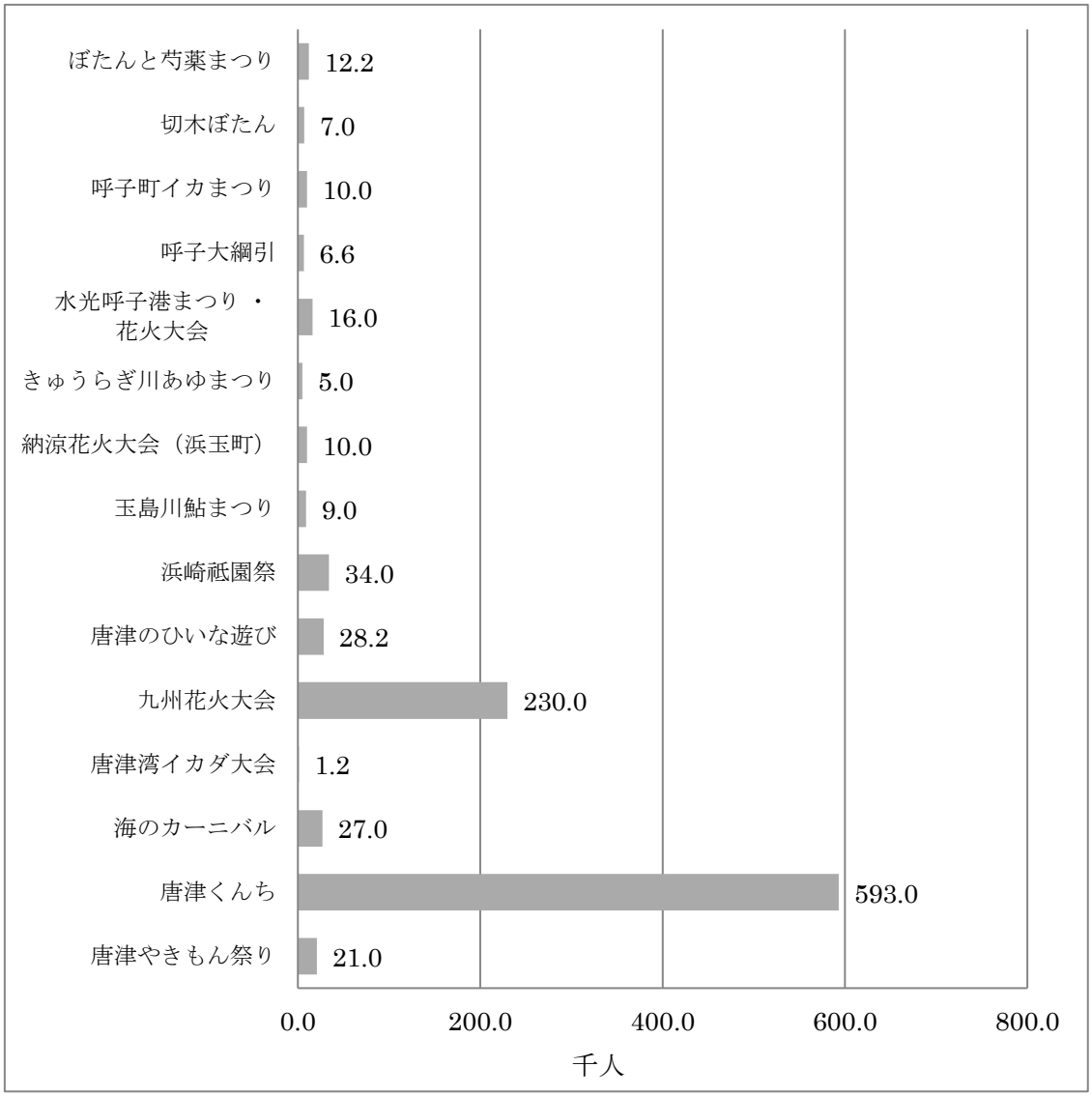
・直売所などの入込数を見ると、マリンセンターおさかな村が、約１４７万人と特化している様子がうかがえる。

直売施設などの入込（平成２４年）



・行催事の入込は、唐津くんちが約５９万人と突出しており、次いで九州花火大会が２３万人となっている。
・唐津くんちをはじめ、九州花火大会の、誘客力の高さがうかがえる。

行催事の入込（平成２４年）



⑤観光消費額

・観光消費額については、年間消費額は平成２５年で約２６７億円と推計されており、前年より４％減少している。
・消費額の割合は、飲食費が３５％、土産費が２７％、交通費が１６％、宿泊費が１５％の割合となっており、いずれの年もこれらの割合に大きな変化は見られない。

（３）観光の取組状況

①既往計画―第２次唐津市総合計画―

唐津市のまちづくりの基本理念

「市民力・地域力によるまちづくり」

唐津市が目指すべき将来像

「海と緑にかこまれたここちよい唐津」

観光に関する基本目標と基本施策

観光に関する基本目標

「歴史と文化が輝く観光のまちづくり」

基本施策

項　　目	方　　針
基本目標５	「歴史と文化が輝く観光のまちづくり」
基本施策	基本施策１　唐津らしさが輝く交流による観光まちづくり
	基本施策２　文化活動の継承と文化交流の促進
	基本施策３　スポーツ環境の充実とスポーツ交流の促進
	基本施策４　自然、歴史、文化を活かした景観等の整備
	基本施策５　人、物、文化の交流拠点としての港湾の整備

地域ごとのまちづくりの方向性

地域	まちづくりの方向性
中央地域	①広域交通網を活かした観光交流や産業振興に寄与する地域づくりを推進
	②地域固有の自然環境や景観と調和した地域づくりを推進
	③貴重な歴史・文化資源を活かした観光交流による地域づくりを推進
東部地域	①県立自然公園の良港な森林・自然環境の保全・活用を推進
	②自然環境等の資源や体験活動を活かした都市・農山村交流を推進
南部地域	①広域交通網を活かした産業振興に寄与する地域づくりを推進
	②観光・交流資源を活かした観光周遊ルートの確立を推進
西部地域	①観光周遊ルートの確立を推進
	②地域資源と食を活かした農漁村交流促進による地域づくりを推進
北部地域	①玄海国定公園に指定された美しい自然環境・景観の保全を推進
	②体験型観光の導入により、地域活力の向上を推進
	③歴史・文化の連携により、観光・交流拠点機能を強化

②唐津市および観光協会の観光に関する事業

唐津市の観光に関する事業

・唐津市における昨年度（平成２６年度）の事業は、国内外における観光宣伝、キャンペーン、宿泊誘致、プロモーション、行催事・イベントなどへの支援、名護屋城などの魅力強化などである。

からつ観光協会の事業

・唐津市の観光事業から移管された事業は、観光宣伝、唐津くんち振興、東アジア観光プロモーション、観光イベント助成事業、観光関係団体補助である。

２７年度のからつ観光協会の事業（抜粋）

事業名	概　　要
唐津くんち振興	期間限定した案内所、トイレ、駐車場、渋滞回避等の告知、清掃作業、等
情報発信事業	唐津地区マップ、唐津おもてなし本、相知くんち・唐津くんち・呼子大綱引・唐津やきもんなどのポスター、大綱引ラジオ、あじさい広告、情報発信案内・接遇・誘致人件費、等
旅行者集客プロモーション	旅行者への集客プロモーション、特産品宣伝、呼子マスコミ・朝市振興、ひいな・唐津焼き・花めぐり広告宣伝、等
魅了アップ強化	見帰りの滝を美しくする事業、イカすクリスマス、納涼花火大会、唐津ウォーキングコース推進事業、唐津焼を活用した観光振興事業、等
唐津観光協議会運営事業	ホームページリニューアル・運営、クラウド・タブレット、協議会運営費、戦略策定等委託費、等。
観光イベント助成事業	唐津湾イカダ大会、玉島川鮎まつり、きゅうらぎ川あゆまつり、村田英雄音楽祭、ぼたんと芍薬祭り、等
各種関係団体補助	浜崎祇園山笠振興会運営事業、徳須恵ぎおん山笠製作事業、相知くんち山笠作製事業、呼子大綱引振興会運営事業、等
観光宣伝費	NEXCO 西日本お国自慢スタンプラリー、唐津ガイド＆マップ刷新、唐津観光ＰＲ有田町、ＲＫＢラジオ唐津観光情報放送業務、佐賀県観光連盟との合同セールス　東名阪、等
東アジア観光プロモーション事業	東アジア観光プロモーションのための言語対応スタッフ雇用
浜崎祇園山囃子保存会館指定管理	指定管理者への管理委託料
旧唐津銀行維持管理費	維持管理の委託料

③人材育成の取組

過去の取組み―ルネッサンス松浦、唐津・東松浦５０人会―

・「ルネッサンス松浦、唐津・東松浦５０人会」は、当時の「唐津・東松浦広域市町村圏組合」からの参加を募り結成。
・構成メンバーは、行政職員、民間事業者、学生、芸術家、議員など。
・同会では、会費制により毎月１回の定期的な勉強会を開催。
・勉強会では、新聞記者、医者、情報誌関係者を招聘しての話をうかがった。
・また伊万里など近隣との意見交換会も開催。
・この意見交換会では、唐津の持つよさの再発見と近隣のまちについて学んだ。

現在の取組―からつ観光協議会―

・唐津市は、昨今の観光客の入込状況をはじめ、観光戦略なき中での「ばらばらな動き」(「魅力ある観光地域づくり推進モデル事業」現状報告書より)、さらには佐賀県観光戦略の方向性を鑑み、平成２６年８月に「からつ観光協議会」を立ち上げている。
・からつ観光協議会は、市民、行政、産業界で構成された協議会で、オール唐津で観光振興に取り組むためのプラットフォームとして位置づけられている。

唐津観光協議会を構成するチームと役割

チーム名	役　　割
キーパーソンチーム	観光戦略の策定（戦略の決定と改訂） 市内事業者の連携強化の働きかけと観光振興の方向性を検討する。
プロジェクトチーム	観光戦略の骨子の策定。 観光未来塾チームから出されたアイデアを基に戦略骨子を検討する。
観光未来塾チーム	観光のアイデア出しと担い手の育成。 次世代を担う各種団体若手メンバーにて、これからの唐津を考える。

（4）地域の強みおよび弱み（強み●　弱み▲）

観光特性から

①立地特性より

●周辺都市から何度も訪れやすい位置にある。

●周辺地域へ出掛けるのに便利な立地位置にある。

▲宿泊滞在地としての性格が弱い。

②自然特性より

●本市の多様な自然を活かすことが可能である。

③観光資源より

●観光資源の豊富さ・幅広さを背景とした、豊富な・幅広い人々（人材）の存在。

●観光資源の豊富さ・幅広さは、さまざまな取組に活用できる。

観光客の現状から

①日帰り観光客数の状況より

●日帰り観光客から高い支持を得ている。

▲唐津市中心部などへの賑わいや活性化への結びつきが弱い。

②宿泊観光客数の状況

●一定の宿泊施設を有しており、宿泊観光客の受入力を有している。

▲季節による変動が顕著であり、通年での誘客力が弱い。

③発地別観光客数の状況

●佐賀県内および福岡県など近隣周辺地域からの支持を得ている。

④観光地点別入込数

●相当数が訪れている観光資源・施設や行催事の状況を活かすことが可能である。

⑤観光消費額

●豊富な・幅広い観光資源を背景に、観光客による一定の消費が毎年ある。

既往計画―第２次唐津市総合計画―より

①唐津市のまちづくりの基本理念「市民力・地域力によるまちづくり」

●同基本理念に即した活動がしやすい。

②唐津市が目指すべき将来像「海と緑にかこまれたここちよい唐津」

●同基本理念に即した活動がしやすい。

③観光に関する基本目標と基本施策「歴史と文化が輝く観光のまちづくり」

●同基本理念に即した活動がしやすい。

④地域ごとのまちづくりの方向性

●「観光」・「交流」の方向性に即した活動がしやすい。

▲観光のまちづくりを推進・牽引していく人材が不十分。

唐津市および観光協会の観光に関する事業より

①唐津市の観光事業より

●事業予算を背景に、観光振興を推進していく力を有している。

②観光協会の事業より

●唐津市の観光振興を牽引する団体として、唐津市、観光関係団体、市民から強く期待されている。

●唐津市の観光振興を牽引する力を有する人材が数多く在籍している。

人材育成の取組より

①過去の取組み

●人づくりに取り組んだ先人の存在は、今後の新たな取組への理解や協力などを得やすい。

②現在の取組み

●観光からのまちづくりを担う多くの人材の存在は、強みである。

●協議会のメンバーどうしの親密なつながりは、観光からのまちづくりにおいて力強い推進力となる。

（5）課題の抽出と課題解決のための施策

①観光を取り巻く状況より

【課題】

・唐津市の立地特性を活かした、観光客の再来訪率の維持・向上。
・新たな企画の開催などによる宿泊・滞在需要の掘り起し。
・周辺観光地との違いの顕在化。
・観光資源の豊富さ・幅広さゆえに、活用にあたっての優先性の考慮。

【課題解決のための施策】

・観光資源のさらなる魅力の向上。
・新たな観光資源の創出。
・観光資源の情報発信の維持・強化。
・地域の意向、訴求力、求心力、効果性などを考慮した、活用の優先順位の設定と段階的な活用。など

【観光客の状況】

【課題】

・多くの観光客の訪問を、唐津市中心部などの賑わいや活性化へ結びつける方策の検討。
・宿泊観光客数増加との相乗効果が期待できる方策の検討。
・経済効果の認識を前提とした、観光消費額の増加策の検討。

【課題解決のための施策】

・観光地点別の入込数を活かした、多様な効果の周辺への波及。
・日帰り・宿泊観光客の、唐津市中心部などへの多様な誘導方策の実施。
・特産品はじめ飲食店など、唐津市における買い物・飲食などの消費行動を誘発する質の高い情報の発信。など

②観光の取組状況より

【既往計画―第２次唐津市総合計画―】

【課題】

・基本理念、目指すべき将来像、観光振興の基本目標を実現するための人材発掘・育成。
・唐津市が目指すべき将来像「海と緑にかこまれたここちよい唐津」の実現へ向けた、具体的取組の実施。
・観光に関する基本目標である、「歴史と文化が輝く観光のまちづくり」へ向けた、具体的取組の実施。
・各地域にふさわしい、それぞれの「観光」・「交流」の具体化。

【課題解決のための施策】

・基本理念、目指すべき将来像、観光振興の基本目標を実現するための行政、事業者、市民、地域などによる情報交換・意見交換の場の設定をはじめ、各種事業の実施などを通した、観光振興を牽引する人材の発掘・育成。
・基本理念、目指すべき将来像、観光振興の基本目標を実現するための観光に関する体系的かつ実効性ある観光振興基本計画の策定。
・観光振興基本計画に基づく、基本理念、目指すべき将来像、観光振興の基本目標を実現するための具体的事業の実施。
・各地域の状況や可能性などを踏まえ、各地域に支持されるような「観光」・「交流」の具体的事業の実践。など

【唐津市および観光協会の観光に関する事業】

【課題】

・多くの事業の円滑かつ・効果的な実施。

【課題解決のための施策】

・市、観光協会、関係団体などとの強固な連携体制の確立。
・観光協会における組織力のさらなる向上。

【人材育成】

【課題】

・先人の取組み内容の確認と、継続や発展についての課題の顕在化。
・唐津市の現状を踏まえて、今日、必要とされている具体的人材の顕在化と発掘・育成。
・協議会の効率的・効果的な運営。
・観光まちづくりへ向けた提案などを活かした、協議会による実践、継続、展開。

【課題解決のための施策】

・観光まちづくりの取組実践者などからの聴取を踏まえた、過去の取組の検証、必要とされている具体的人材の顕在化。
・提案内容の検討、提示、分類、整理、合意形成など、段階的な時間割による協議会の運営。
・具体的なテーマ設定による部会ごとのテーマの深化と実践。

（6）事業計画策定のための今後の方向性

―「地域の意識改革と唐津のニューリーダー育成」の観点から―

①地域の意識改革

既に設立されている「からつ観光協議会」を活かした、具体的なテーマを設定した部会による検討、具体的事業の実施が可能である。

②唐津のニューリーダー育成

観光まちづくりの企画立案、呼び掛け、調整などを行うリーダー＝コーディネーターの育成に焦点を当てることが効果的である。

③事業計画の策定と事業の実施におけるテーマ設定

地域の意識改革と唐津のニューリーダー（コーディネーター）育成の両テーマの掛け合わせによる事業計画の策定と事業の実施が効率的かつ効果的である。

④事業計画の策定と事業実施を通した成果

唐津におけるリーダー像（コーディネーター像）の設定と、その実現のための事業計画を策定する。

事業の実施を通して、同ニューリーダー（コーディネーター）育成のノウハウの構築を図る。

⑤本モデル事業における協議会の将来的方向性

「コーディネーター」を仕事として担うことができるとともに、「コーディネーター」が育つための組織づくりを志向する。

⑥モデル事業における“教材”

モデル事業における地域の意識改革とニューリーダー育成においては、地域に賦存する観光資源を「教材」として活用する。

６．地域協議会での検討

●「魅力ある観光地域づくり推進モデル事業」地域協議会構成メンバー一覧
▼構成員（平成 27 年度～平成 28 年度）

所　　属	氏　　名
ルーツ・アンド・パートナーズ	佐藤　直之
カフェ　ルーナ	前田　真子
ＪＡ唐津北波多製茶工場	久保　武士
唐津シネマの会（所属）	藤本　佑子
ＪＲ九州　唐津鉄道事業部	山田　大輔
（一社）唐津観光協会	山根　路子
ジャパン・コスメティック・センター	小田切　裕倫（H28）
バーズ・プランニング	松尾　聡子（H28）
唐津市商工観光部　観光課	坂口　順之（H27） 青木　敦美（H28） 岡本　陽介

（順不同・敬称略）

＜平成 27 年度協議会＞
●第 1 回意見交換会：平成 27 年 6 月 23 日（火）
▼事業計画の作成及び協議会を立ち上げるにあたり、協議会候補メンバーである地域関係者との意見交換を目的として開催。
（議題）
・地域で普段取り組んでいること、やりたいことについて
・人材育成事業で取り組みたいこと、取り組むために必要なことについて

●第 2 回意見交換会：平成 27 年 7 月 16 日（木）
▼事業計画の作成に向けた事業検討とスケジュールなどを固めるために、協議会候補メンバーと意見交換を目的として開催。
（議題）
・前回までの振り返り
・モデル事業のイメージ出しについて
・事業の実施スケジュールについて

●第 1 回協議会：平成 27 年 9 月 1 日（火）
▼地域総合診断報告結果に基づき、事業の取組内容について協議を行った。
（議題）
・人材育成事業の方針について
・モデル事業の取組内容について
・先行的検証事業の実施について
・スケジュールと今後の進め方について

●第 2 回協議会：平成 27 年 11 月 20 日（金）
▼先行的検証事業に取り組んだ結果を基に、具体的な事業計画についての検討を行った。
（議題）
・前回までの振り返り
・事業計画の検討について
・先行的検証事業の実施結果について

●第 3 回意見交換会：平成 27 年 11 月 30 日（月）
▼事業計画の掘り下げを図るための意見交換を行った。
（議題）
・事業計画案の掘り下げについて
・今後の進め方について

●第 3 回協議会：平成 28 年 2 月 2 日（火）
▼事業計画案の確認及び今後のスケジュールについての検討を行った。
（議題）
・平成 28 年度事業計画案について
・スケジュールと今後の進め方について

＜平成 28 年度協議会＞
●第 1 回協議会：平成 27 年 5 月 24 日（火）
▼4 月に行われた検討委員会の結果を共有し、事業の実施に反映させていくことを目的として開催。
（議題）
・検討委員会の結果について
・事業実施について
・弘前モデル事業との意見交換の開催について

●第 2 回協議会：平成 28 年 8 月 1 日（月）

▼他地域のモデル事業との意見交換会を開催し、双方の事業についての意見交換を実施。
　また、今年度事業計画の進捗と中間報告に向けた調整を目的として開催。

（議題）

・弘前モデル事業と唐津モデル事業の意見交換について

・モデル事業の進捗について

・中間報告に向けた整理について

●第 3 回協議会：平成 28 年 10 月 5 日（水）

▼10 月に行われた検討委員会での中間報告に対する各委員からの意見を共有し、事業の実施に反映させていくことを目的として開催。

（議題）

・「魅力ある観光地域づくり推進モデル事業」中間報告について

・ニューリーダーの育成状況について

●第 4 回協議会：平成 28 年 12 月 19 日（月）

▼協議会としては最終の開催であり、3 月の検討委員会前に実績報告のとりまとめを行うことを目的として開催。

（議題）

・平成 27 年度事業を実施しての感想等について

・平成 27 年度事業報告について

７．検討すべき事業計画の概要

【事業目的】

本市は、観光地としてのポテンシャルは高いものの、次世代に唐津を引き継ぐために必要な観光の担い手づくりが求められている現状がある。

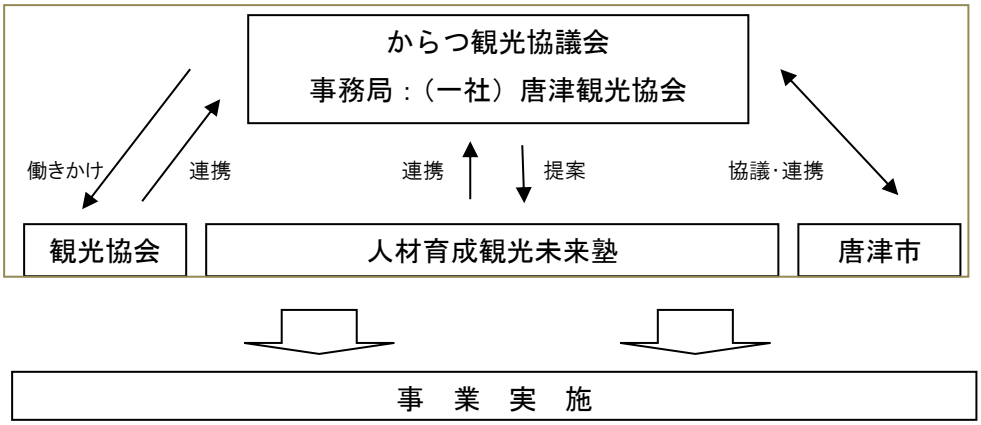
このため、この事業では、この課題を解決するために、話題性のある総市民参加型のアクションを起こすことで、唐津という「まち」や文化などの「資源」をいかに楽しむ（深掘りして価値を知る）のかを体感し、遊び心を持って「人と人、組織と組織」をつなぐことができるニューリーダー（コーディネーター）を育成し、次世代に唐津を引き継ぐための足がかりとする。

また、価値観を共有・共感できる仲間づくりを通して、唐津のありたい将来像を描き、本音で将来の地域を語れるチーム（〇〇部）を形成し、目標達成に向けた〇〇部ごとのニューリーダー（コーディネーター）育成につなげる。

【事業計画の内容】

人口減少が進む中、限られた人材でニューリーダーを育成することは難しいこともあり、市民の誰もがニューリーダーとして活躍できる可能性を見いだせるような総市民参加型の事業として、学校の「部活動」のようなイメージをコンセプトに、（１）新しい魅力づくり、（２）情報発信・話題づくり、（３）受入環境づくりの３事業の下、それぞれのニューリーダー（コーディネーター）育成に取り組む。

【実施体制】



＊事業実施にあたっては地域協議会、関係事業所と連携し実施する。

【実施目標】

唐津〇〇部発足　　３０部（平成２７年実績　２部）

（１）新しい魅力づくり　　１０部（平成２８年度　５部）

（２）情報発信・話題づくり　　１０部（平成２８年度　５部）

（３）受入環境づくり　　１０部（平成２８年度　５部）

※実績　唐津ごみゼロ部、唐津リポート部

コーディネーター　　２０人（平成２７年実績　０人）

（１）新しい魅力づくり　　７人（平成２８年度　１人）

（２）情報発信・話題づくり　　７人（平成２８年度　１人）

（３）受入環境づくり　　６人（平成２８年度　１人）

【期待する効果・成果】

（１）新しい魅力づくり

唐津〇〇部として活動することで、地域資源の魅力を楽しみながら体感する機会が創出され、地域の魅力の再発見や再認識へとつながり、「地域の意識改革と新たな価値創造ができるニューリーダー」が育成されることが期待できる。

（２）情報発信・話題づくり

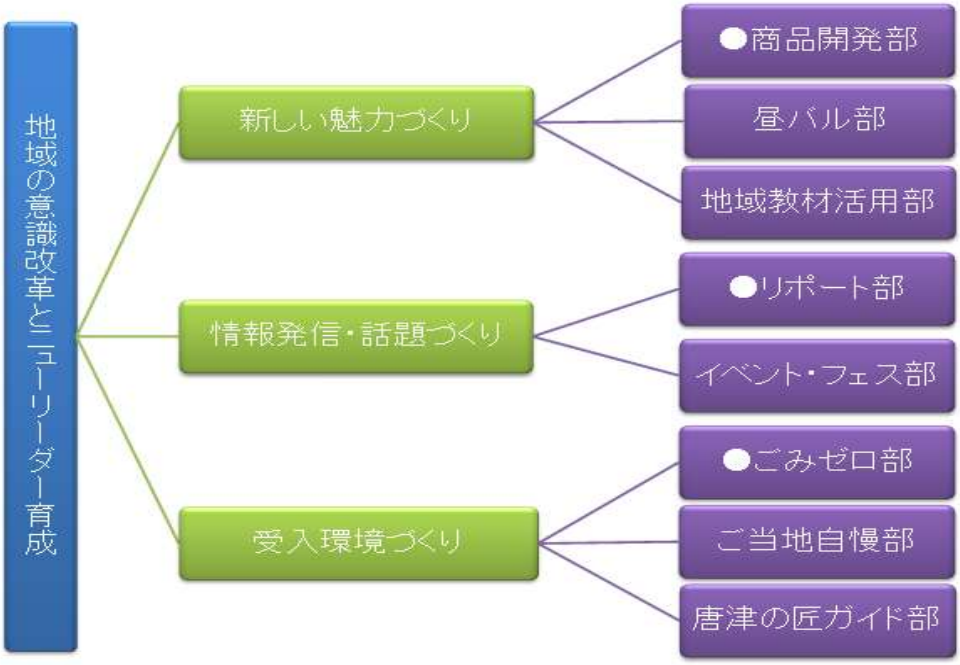
唐津〇〇部として活動することで、情報発信の手法としてのリポート部の活動を通して、「地域の意識改革と地域の魅力を語れるようなニューリーダー」が育成されることが期待できる。

また、話題づくりなどにより、地域の気運の高まりと地域の一体感の醸成につながることも期待できる。

（３）受入環境づくり

唐津〇〇部として活動することで、地域課題を解決するための課題の共有と受入環境づくり、さらには地域コミュニティの再構築などへとつながり、「地域の意識改革と人と人との新たな連携の輪を構築できるようなニューリーダー」が育成されることが期待できる。

事業の体系（唐津・魅力ある観光地域づくり「部活動」）



平成２８年度は「●」がついている３事業を重点的に実施する。

（１）新しい魅力づくり

◆平成２８年度重点事業【唐津商品開発部】

新たなコラボによる唐津〇〇部の気運醸成と一体感を醸成するための活動者の共通コンテンツとなるグッズ製作や地域課題などを解決するための唐津の素材等を活用した唐津ならではの新たなコラボ商品の開発を通して、商品開発のために必要な人（企業）と人（企業）をマッチングできるコーディネーター（企業などに所属している人材）を育成していく。

また、商品開発に取り組むことで、新たな地域の仕事の創出や消費を産むことでの企業連携、さらには活動を支えてくれる企業サポーターなどの波及も期待される。

◆平成２９年度以降の事業

「昼バル部」、「酒バル」、「地域教材活用部」なども順次取り組んでいくこととし、事前に着手できるものは重点事業と同軸または巻き込みながら事業に取り組んでいく。

（２）情報発信・話題づくり

◆平成２８年度重点事業【唐津リポート部】

唐津の地域資源や人、まちなかなどにある唐津の定番から裏側までを紹介する「唐津リポート部」に取り組むことで、唐津の魅力の再認識や新たな魅力発見などを通して、唐津を熟知したまちナビコーディネーター（地域の人材）を育成していく。

◆平成２９年度以降の事業

「イベント・フェス部」なども順次取り組んでいくこととし、事前に着手できるものは重点事業と同軸または巻き込みながら事業に取り組んでいく。

また、地域の資源を消費者目線で磨き上げ、話題性のある商品づくりができるコーディネーターの育成に取り組む。

（３）受入環境づくり

◆平成２７年度に先行的な事業として取り組んだ「唐津ごみゼロ部」の活動を通して、「部活動」というスタイルでの仲間集めの手法やお客様の受入れ環境整備に貢献するために地域と連携できるようなコーディネーター育成の手段として効果的であるという手応えが感じられたことから、本格的な事業化を図るもの。

◆平成２８年度重点事業【唐津ごみゼロ部】

地域イベントやお祭りで発生する「ごみ問題」に焦点をあて、ただ単純にごみ拾いを行うのではなく、地域イベントなどを楽しみながら地域貢献できる仕組みを取り入れた「唐津ごみゼロ部」に取り組むことで、お客様の受入環境整備に貢献できるコーディネーター（地域または各種団体の人材）の育成に取り組む。

また、子どもたちを巻込んだ地域貢献活動を行うことで、地域愛の醸成や地域への誇りの醸成へとつなげ、未来のコーディネーター育成につながることも期待するもの。

◆平成２９年度以降の事業

「ご当地自慢部」、「唐津の匠ガイド部」なども順次取り組んでいくこととし、事前に着手できるものは重点事業と同軸または巻き込みながら事業に取り組んでいく。

その他想定される〇〇部、先行的に取り組んでいる〇〇部

想定：ハロウィン部、地酒部、スイーツ部、マルシェ部

先行：焼きめし部、フットサル部、青空部、自転車部、洗車部、肉食部、芸術部

８．実施した事業の概要と検証

本章では、前述の事業計画に基づいて実施した、各事業の概要について取りまとめを行った。そして、さらに各事業における実施結果についての検証を行い、次年度以降の事業の参考とするための課題等を明らかにした。

以下、事業ごとに実施内容、成果・効果、課題を掲載している。

（※網掛け事業が当該モデル事業予算を使用しての事業）

１．新しい魅力づくり

（１）KARATSU きれい課（商品開発部）

【事業内容】

・子育てするお母さんやコスメに興味がある人など、唐津で美について話すための集まる場を創出。

・地域資源から化粧品開発のアイデア出しやコスメ原料の収穫体験など、フィールドでの学びの場と想いをカタチにつなげる可能性を秘めたコミュニティ事業。

【実施状況】

・７月から KARATU きれい課を立ち上げ、地域の課題共有や地域資源の活用について、気軽に話せる環境下でミーティングを開催。

・ハウスミカンの生産量と出荷量が日本一であるが、一方で耕作放棄地のみかん畑が増加している現状を打開するために、放棄地のみかんの花で化粧品開発を模索。

【成果・効果】

・この取り組みに興味を持たれた企業側からのアプローチがあり、モデル事業後も継続した取り組みが出来るような支援獲得にもつながっている。

・デザイナーやコスメ関係者が、観光による地域づくりの視点を持ったコーディネーターとしての活躍が期待される。

（2）昼バル部

【事業内容】

・地域資源を教材としたイベントコーディネーターの育成と地域を巻き込んだ新たな魅力づくりを図るために、「唐津焼のぐい呑みと地酒を楽しむ酒バル」を開催。

・これまで地域で取り組まれてきた「食と器の縁結び」の考え方をベースに、人と人の出会い、そして地域資源の新たな活用を提案するための「食と器ラボ」を開催。

【実施状況】

・唐津焼のマイぐい呑みを持参して、イベントに参加する新たなバル形式で、唐津焼で食と地酒を楽しむ企画を実施。

・商店街活性化に取り組んでいる地域の人、唐津焼振興を先導されている人、唐津焼の若手陶芸家、モデル事業メンバーである飲食店店主などの「人と人」をつないだイベント企画として、「食と器ラボ」を開催。

・若手陶芸家が月替わりの角打ちマスターとなり、地元の飲食店・料理人・酒造店がコラボし、食と器にまつわる新しい試みや場づくりを提案。

【成果・効果】

・新しい場づくりにより、関わった地域の方の意識改革と新たな価値に触れるきっかけづくりへとつながった。

・担い手育成事業ではあるが、空き店舗対策や唐津焼の普段使いの訴求など、地域課題を解決するための目標と連携した効果的な企画イベントへとつながっている。

・市民が参加しやすい、または集まりやすい環境づくりに取り組むことが、結果的にその地域の観光の担い手となる人材育成につながっていく可能性が示された。

・地域資源を地域が普段使いできることが、その価値を語れるものであり、新たな価値を創造するための基礎として重要であることの意識付けにもつながっている。

・今回の協議会メンバーで飲食店店主が、日本遺産「肥前窯業圏」の地域プランナーの１人として任命されるなど、次のステップへとつながっている。

２．情報発信・話題づくり

（１）リポート部

【事業内容】

・地域の魅力を語れるニューリーダーの育成につなげるために、効果的な情報発信の手法とコーディネーターの役割を検討

・ＳＮＳなど媒体の活用を調査

【実施状況】

・福岡で開催した食のイベント「唐津まるごとマーケットｉｎ天神」へ出店し、モデル事業の活動紹介やＳＮＳによる情報発信の効果を検証

・唐津の地域資源のＰＲも併せて実施

【成果・効果】

・近隣の福岡であっても正しい情報が届いておらず、従来の観光協会や行政が発信する情報では内容に限界があり、お客様ニーズの多様化には対応できていない結果となり、ＳＮＳなど個人が発信する媒体の即効性や効果性を改めて実感した。

・観光協会だけに情報発信を任せるのではなく、役割に応じて、一人一人が地域に誇りを持った観光案内人として、唐津の定番から裏側までの旬な情報発信を行っていくことが重要であるとの結論づけとなった。

・まずは今回の協議会メンバーが核となり、情報発信のニューリーダーとして先導し、ひいてはオール唐津へと派生することを目標に取り組む目的が明確化された。

３．受入環境づくり

（１）唐津ごみゼロ部

【事業内容】

・唐津ごみゼロ部が起点となって、いろいろな新しい唐津〇〇部への派生を起こすための活動を実施

・座学による人材育成ではなく、フィールドを学びの場として、人材育成を行う「唐津〇〇部」を手段とした環境づくりを実施

【実施状況】

・唐津くんち（ユネスコ無形文化遺産）のお祭り時にごみゼロ活動を実施し、ごみの分別ブースの設置や清掃作業を実施。

・清掃活動のみではなく、お祭りも楽しむような参加型のイベントスタイルで取り組みお祭り時のごみ対策に貢献

【成果・効果】

・ごみゼロ部の活動が起点となり、フットサル部など参加しやすい〇〇部が次々に発足していった。

・人材育成の第１フェーズとして、「集まる場」の創出が図られ、みんなで考える場所や体験する場所へとつながり、参加者の意識改革のためのきっかけにつながった。
・またフットサル部のメンバーとして参加していた一人が、ごみゼロ部の活動を支援するための商品開発部として、バーチャル事業部となる「Karatsu きれい課」を発足
・人材育成とは無縁のようなごみゼロ部が起点となって多種多様な部活動が派生的に誕生しており、今後も継続的な活動が期待される。

（２）他の事業とのコラボ事業　「カラツ大学」

【事業内容】
・大林宣彦監督が唐津で映画の撮影を行われた際のロケ地の清掃を唐津ごみゼロ部が請け負った経緯もあり、まちづくり会社が取組んでいる「カラツ大学」の講座とコラボを行い、大林監督を先生とした特別授業を開校
・映画を通した地域の魅力を語って頂き、地域の意識改革につなげる。

【実施状況】
・大林監督による特別授業を実施し、地域の約１２０人が参加した。

【成果・効果】
・カラツ大学を活用した新たな人材育成の手法を検証できたものであり、唐津ならではのコーディネータースキルを高め、双方が補完出来るような環境づくりに向けた今後の可能性が確認につながった。

９．モデル事業のまとめと今後の課題

（１）地域協議会による自己評価

【効果、成果】

新しい魅力づくりを柱とした事業に取り組み、コスメという切り口で地域資源の魅力を楽しみながら体感する機会が創出され、地域資源から化粧品の開発につながるなど、関わった地域の方の意識改革と新たな価値（商品開発）に触れる機会が誕生した。

この事業に参加したデザイナーとコスメ開発担当者が、地域の方と接する機会が創出され、観光視点を持った新たなコーディネーター育成のきっかけにもつながっており、今回の事業以外での活躍も期待できる状況が生まれている。

情報発信・話題づくりを柱とした事業に取り組み、基本情報など統一した情報発信や情報取得の窓口を一本化することは必要であるが、本当の魅力を伝えるためには、個々の想いが詰まった情報発信のほうが効果的であることがわかった。

情報発信を観光協会にまる投げするのではなく、地域に住む一人ひとりが地域の魅力を語れるニューリーダーとして活躍できる環境づくりを進めることが必要であることがわかった。

今回の協議会メンバーが核となって情報発信のニューリーダーとして先導し、ひいてはオール唐津へと派生することを目標とすることが協議会メンバーで共有できた。

受入環境づくりを柱とした事業に取り組み、唐津ごみゼロ部から派生した様々な唐津〇〇部が、地域課題を解決する糸口となる可能性が高いことを実感させられた。

これまで共有できていなかった課題を再認識できる機会が創出され、唐津〇〇部を通して、人と人の新たな連携の輪がつながっていき、地域活性化や商売としての事業化など、多方面での広がりが期待できるものであると感じている。

【モデル事業で誕生したニューリーダー及び今後ニューリーダーとして期待できる担い手】

久保氏　藤本氏　松尾氏　小田切氏　佐藤氏　前田氏

（ごみゼロ）　（デザイナー・コスメ）　（プランナー）

【改善点や今後に向けた取り組み】

フィールドを学びの場として、人材育成を進めることの有効性は確認できたが、この取り組みを持続的に実施するための仕組みづくりが今後の課題となってくる。

併せて、活動を持続的に支援できるような企業スポンサーなど下支えしてくれる応援者づくりも重要なポイントとなってくる。

また、誕生したニューリーダーが活躍できる場の創出や地域との結びつきの強化など、各ニューリーダーが強みを高めあう関係性の向上や今回誕生したニューリーダーから派生した未来のニューリーダー育成などへとつなげていくことが重要である。

今回のモデル事業をきっかけとして、観光地域総合診断調査の結果やモデル事業の成果を踏まえた検証をさらに進め、次のステップに向けた進化を目指したい。

（２）アドバイザーによる専門家評価

唐津市における「魅力ある観光地域づくり」のための、「地域の意識改革と唐津のニューリーダー育成」をテーマとしたこの事業では、地域における実践を通して、唐津のニューリーダー（コーディネーター）の育成が実現し、また多くの参加者により地域の意識改革も前進した。

唐津市での取組が成果を得た要因として、このモデル事業の２ヶ年の関与を踏まえて、次の点を指摘することができる。これらの点は、他の地域において同様のテーマで実践する場合においても、成果を得るための重要な要件である。

【成果を得た要因】

①協議会が、オール唐津による「からつ観光協議会」の中に位置づけられていたこと。

「からつ観光協議会」は、市民、行政、産業界で構成された協議会（唐津市議員連盟の発案により発足）で、オール唐津で観光振興に取り組むためのプラットフォームとして位置づけられている。そのため市担当課も動きやすく、市議会をはじめ市行政においても、協議会の活動への理解や支援を容易に得ることができた。

②協議会で実現するテーマが具体化されたこと。

唐津市における「魅力ある観光地域づくり」のテーマ「ニューリーダー育成」が、協議会における会議を通して、さらに具体的なテーマ「コーディネーターの育成」として共有され、その実現へ向けた取組みに焦点が絞られ、実践しやすくなった。

③協議会が、課題を認識し、課題解決へ向けて実践したい人で構成されたこと。

協議会が、唐津市における「魅力ある観光地域づくり」のための課題（唐津くんちにおけるゴミの散乱、駅前商店街の衰退など）を認識し、またその解決のための行動を起こしたい人で構成されたことで、地域で必要とされるコーディネーターの育成が実現した。

④部活動のイメージで実践したこと。

実践を通した取組について、市民の誰もが活躍できるよう、「唐津〇〇部」と称した学校の部活動のようなイメージで呼びかけ、実践したことで、活動に参加する仲間が増え、地域の人々を幅広く巻き込むことができた。

⑤初期段階から課題解決のための活動を実践したこと。

地域を代表する祭事「唐津くんち」を対象に、祭事中および祭事後の清掃を目的とした「ゴミゼロ部」を早速立ち上げ、初期段階から課題解決のための活動を実践した。そのことから、実践を通して当該部活動のコーディネーターのあり方等が、地域に沿って明らかになった。

⑥地域資源に着目したこと。

コーディネーター育成にあたり、「唐津くんち」や「唐津焼き」などの地域資源に着目したことで、共感する多くの人が集まった。それにより人どうしのつながりが容易に広がり、さらに、さまざまなテーマの「部活動」が派生的に誕生していった。

このことから地域資源への着目や、部活動のイメージでの実践的な活動は、魅力ある観光地域づくりを担うテーマを持った活動において、それぞれのコーディネーターが生まれることが期待できる。さらにコーディネーターを仕事として行うための人脈（委託者、スポンサー、協力者等）づくりにも効果が期待できる。

【今後の課題】

①実施目標を達成するための継続的な取組

協議会が作成した事業計画においては、実施目標を「唐津〇〇部発足」を３０部、コーディネーターを２０人としている。そのため引き続き、これらの実施目標の達成のための取組が必要となる。

②事業予算の確保

上記のための継続的な取組には、唐津市域において実践を通して目標達成することが不可欠であることから、それぞれの取組内容に応じて事業予算の確保が必要となることが予想される。本モデル事業は２ヶ年で終了するが、今後の取組のための事業予算を、だれがどのように確保していくか明らかにする必要がある。

③組織体制の確立

協議会の事務局は唐津市観光課担当者が主導的に関わっていたことから、同担当者の異動等による取組状況の進捗変化等が懸念される。そのため今後の事業継続性が十分担保されるためにも、実行力のある組織体制の確立が課題である。

◆参考資料

＊事業申請書

（様式１）

「魅力ある観光地域づくり推進モデル事業」申請書

計　　画　　名		唐津観光未来塾～地域の意識改革と唐津のニューリーダー育成～
申請者	団　体　名	唐津市
	代表者役職・氏名	唐津市長　坂井　俊之　　印
	所　在　地	〒８４７－８５１１ 佐賀県唐津市西城内１－１
連絡担当窓口	団　体　名	唐津市
	氏　　名	岡本　陽介
	所属　・　役職	観光文化スポーツ部　観光課　観光企画係　副主査
	所　在　地	〒８４７－８５１１ 佐賀県唐津市西城内１－１
	電　話　番　号	０９５５－７２－９１２７
	Ｆａｘ番号	０９５５－７２－９１８２
	E-ｍａｉｌ	okamoto-yousuke@city.karatsu.lg.jp

（様式２－１）

「魅力ある観光地域づくり推進モデル事業」現状報告書

<table>
<tr><td colspan="2">申請者</td><td>唐津市</td></tr>
<tr><td rowspan="12">現状報告(把握している範囲で構いません)</td><td>貴市町村における総合計画（地域振興計画）の有無</td><td>なし
（あり）　（策定年、名称、内容）
唐津市総合計画（平成１８年３月策定、平成２７年度改訂予定）
海・山・川の響きあう響創のまちづくり</td></tr>
<tr><td>総合計画(地域振興計画）における観光産業の位置づけ</td><td>特色ある地域の宝（自然、歴史、文化、伝統、産業）を活かす交通・情報ネットワークが創る観光・交流・物流のまちづくり
・唐津らしさが輝く情報の発信と交流の先端を担う観光の振興
・人・物・情報・歴史・文化が行き交う国際交流の推進
・唐津から福岡都市圏、佐賀都市圏、また中心部から各地域への交通網の整備
・福岡・佐賀都市圏等広域交通網の整備
・人・物・文化の交流拠点となる港湾機能の充実
※H27 年度改訂予定
オール唐津で創りあげる唐津観光振興の戦略立案と取組実践・評価分析等による PDCA サイクルの確立</td></tr>
<tr><td rowspan="4">貴自治体における観光事業年間予算</td><td>143,545,000　円　　主たる事業内容３つとその割合
※【　】内は「観光関係団体補助金（観光協会補助）」を除いた場合の割合</td></tr>
<tr><td>１．観光関係団体補助金（５１．１％）</td></tr>
<tr><td>２．観光宣伝費（１５．５％）　【３１．６％】</td></tr>
<tr><td>３．宿泊誘致事業費（９．１％）　【１８．５％】</td></tr>
<tr><td rowspan="4">貴観光協会における観光関係年間予算</td><td>162,346,000 円
主たる事業内容３つとその割合</td></tr>
<tr><td>１．ATA 事業（４０．７％）</td></tr>
<tr><td>２．旅行者への集客プロモーション（１６．３％）</td></tr>
<tr><td>３．情報発信事業（７．４％）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">貴市町村における主要観光事業者３社の名称・分野（宿泊、交通事業者、観光施設等）</td><td>１．唐津ロイヤルホテル</td></tr>
<tr><td>２．唐津シーサイドホテル</td></tr>
<tr><td>３．昭和自動車</td></tr>
</table>

（様式２－２）

「魅力ある観光地域づくり推進モデル事業」現状報告書

<table>
<tr><td rowspan="6">現状報告(把握している範囲で構いません)</td><td rowspan="4">貴市町村における観光統計</td><td>入り込み客数（人数、期間）
7,390.5 千人（平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日）</td></tr>
<tr><td>宿泊施設数、収容人数合計
63 軒　3,501 人</td></tr>
<tr><td>のべ宿泊客数(人数、期間)
440.2 千人（平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日）</td></tr>
<tr><td>その他統計（名称、単位、期間）
外国人宿泊客数
7.6 千人（平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">主要な観光推進組織の名称、役割</td><td>１．名称　一般社団法人唐津観光協会
役割　唐津観光の振興</td></tr>
<tr><td>２．名称　からつ観光協議会
役割　唐津の観光関係団体が一丸となったプラットフォームの創出、唐津の観光戦略の一元化に向けた取り組み</td></tr>
<tr><td colspan="2">応募の動機(地域の現状も踏まえて)</td><td>・福岡市から１時間の近距離という強みを活かした観光振興に取り組んできたが、方向性を示すような戦略策定がなされておらず、日帰り観光客は年々減少している。
・宿泊客も減少しており、訪日外国人の占める割合も低い。
・豊富な資源に恵まれた反面、唐津の観光イメージがぼやけ、唐津ならではの観光イメージの確立がこれまで図られていないことが危惧され、唐津の観光地としてのあり方に危機感を抱いている。
・これまで根源となる観光戦略がなかったため、産業界、行政、市民がばらばらの動きをしており、唐津が一丸となって観光振興に取組むための統一的な方向性が示されていなかった。
・これらの課題を早急に解決するために、この状況を地域が自分ごととして捉え、課題解決と戦略的な観光振興に取組むためのプラットフォームの創出が必要という機運が高まり、今年の８月２９日に観光協会、観光関係団体、企業、行政などからなる「からつ観光協議会」が設立された。
・この協議会を中心として、早急な課題解決と唐津のイメージ確立に向け、観光協会、観光関係者、行政、地域が自らの現状を把握し、これからの協力・連携体制の強化に向けた取り組みやお客様を受入れる際の各種関係団体等の意識改革並びにリーダーの育成などを行いたいと考え、申請を行った。</td></tr>
</table>

（様式３－１）

「魅力ある観光地域づくり推進モデル事業」計画書

<table>
<tr><td colspan="2">申　請　者</td><td colspan="3">唐津市</td></tr>
<tr><td colspan="2">計　画　名</td><td colspan="3">唐津観光未来塾～地域の意識改革と唐津のニューリーダー育成～</td></tr>
<tr><td rowspan="8">地域運営協議会</td><td>名　称</td><td colspan="3">からつ観光協議会</td></tr>
<tr><td>設立時期</td><td colspan="3">平成２６年８月２９日</td></tr>
<tr><td>構成メンバー</td><td colspan="3">（一社）唐津観光協会、唐津市、玄海町、唐津商工会議所
唐津上場商工会、唐津東商工会、唐津農業協同組合
佐賀玄海漁業協同組合、唐津市旅館協同組合、浜崎旅館組合
呼子鎮西旅館組合、九州旅客鉄道(株)唐津鉄道事業部
昭和自動車(株)、唐津料飲業協同組合、唐津うまかもん市場
佐賀県飲食業組合唐松地区、NPO 唐津市子育て情報センター
（公財）唐津市文化事業団</td></tr>
<tr><td>事務局設置個所(名称)</td><td colspan="3">（一社）唐津観光協会</td></tr>
<tr><td>事務局所在地</td><td colspan="3">唐津市新興町２９３５－１</td></tr>
<tr><td>担当者氏名</td><td colspan="3">事務局次長　山根路子、庶務経理課長　西田京子</td></tr>
<tr><td>連絡先</td><td>TEL
0955-74-3355</td><td>FAX
0955-74-3365</td><td>E-mail
m-yamane@karatsu-kankou.jp</td></tr>
<tr><td colspan="2">目　標</td><td colspan="3">・唐津を訪れたきっかけやお客様の満足度など、さまざまな視点でギャップ調査などを行い、お客様視点での現状把握を行う。
・各種関係団体などから選出された４０人程度の若手メンバーで構成された観光未来塾が、現状把握の結果を基に課題の洗い出しを実施することで、地域の課題を自分ごととして捉え、物ごとを考えることができる次世代リーダーの育成に取り組む。
・育成するリーダーは、観光戦略に基いた戦術を実施する際に、各種関係団体との連携調整や事業実施時の現場統率が出来るなど全体をグリップできるようなリーダー像を想定。
・各種関係団体が各自の役割を果たすことで魅力ある唐津並びに唐津の地域力を遺憾なく発揮できるような受入及び連携体制の構築を目指す。
【数値的目標】
・リーダー　２年後　５～１０人　、５年後　２０～３０人
・宿泊客（年間）　１０年後　平成２５年度の３０％アップ
※目標値　５７２，３００人／年
・外国人観光客（年間）　１０年後　平成２５年度の３倍
※目標値　２２，０００人／年</td></tr>
</table>

（様式３－２）

「魅力ある観光地域づくり推進モデル事業」計画書

<table>
<tr><td rowspan="3">目標実現のための取組</td><td>目標達成のために解決しなければならない地域の課題</td><td>・唐津が一丸となって観光振興に取組むための羅針盤ともいえる戦略がない。
・各種関係団体が一丸となって観光振興に取組むための役割が明確でない。
・各種関係団体が役割を遂行できるような人材が不足している。
・お客様を受入れる際の各種関係団体における意識が低い。
・地域住民をはじめ、各種関係団体をまとめる核となるリーダーがいない。</td></tr>
<tr><td>課題についての現状</td><td>・唐津が一丸となって観光振興に取組むための観光戦略がない。
・各種関係団体を統括するようなプラットフォームが存在しない状況であった。
・８月２９日に「からつ観光協議会」が発足し、プラットフォームの創出が図れたところであるが、これから各種関係団体が連携を行っていく際の各種関係団体の役割及び唐津として目指すべきゴールの設定には至っていない。
・豊富な資源はあるが、唐津の観光イメージ確立のために必要な具体策についても決定されていない状況であり、これらの課題を解決させていくための各種関係団体の連携に尽力できるリーダーがいない。</td></tr>
<tr><td>検討している計画の概要</td><td>・唐津の一元化された観光戦略を策定した際に、地域と行政、各種関係団体が各自の役割を遂行し、連携が図れるように各種関係団体の意識改革に向けたセミナーやグループワークを開催。
・協議会の若手メンバーで構成される「観光未来塾チーム」にて、現状の把握とこれからの目指すべき将来像の目標を設定。
・専門家などのご意見を頂きながら、各種関係団体が連携したトライアル的なモデル事業の実施を交え、実践の中で各種関係団体のリーダーとなる人材の育成を図る。
※トライアル事業・・・リーダーとしての素質を育み、受入れ体制の構築を行うための事業自体から若手メンバーとともに考えていくもの。</td></tr>
</table>

	想定事業費	総額　５８２万円 ①観光地総合診断（ギャップ調査）の費用　１４０万円 ②専門家派遣に係る人件費、交通費、宿泊費　１６２万円（３回～４回） ③事業着手から終了まで報告書を作成する費用　１０万円 ④委員会を開催するための諸費用　１０万円 ⑤報告書印刷費　１０万円 ⑥事業計画承認後に実施する事業の一部費用　２５０万円
事業の主体性についての自己評価		唐津が一丸となって観光振興に取り組むためにからつ観光協議会が発足しており、この協議会と観光協会が事業主体となって事業行うことは妥当である。
事業の継続性・自立性についての自己評価		今後、唐津の観光振興を進めるうえで、リーダーとなる人材育成はかかせないものであり、継続してリーダーの育成を行っていくことが必要であるため、事業の継続性は高い。

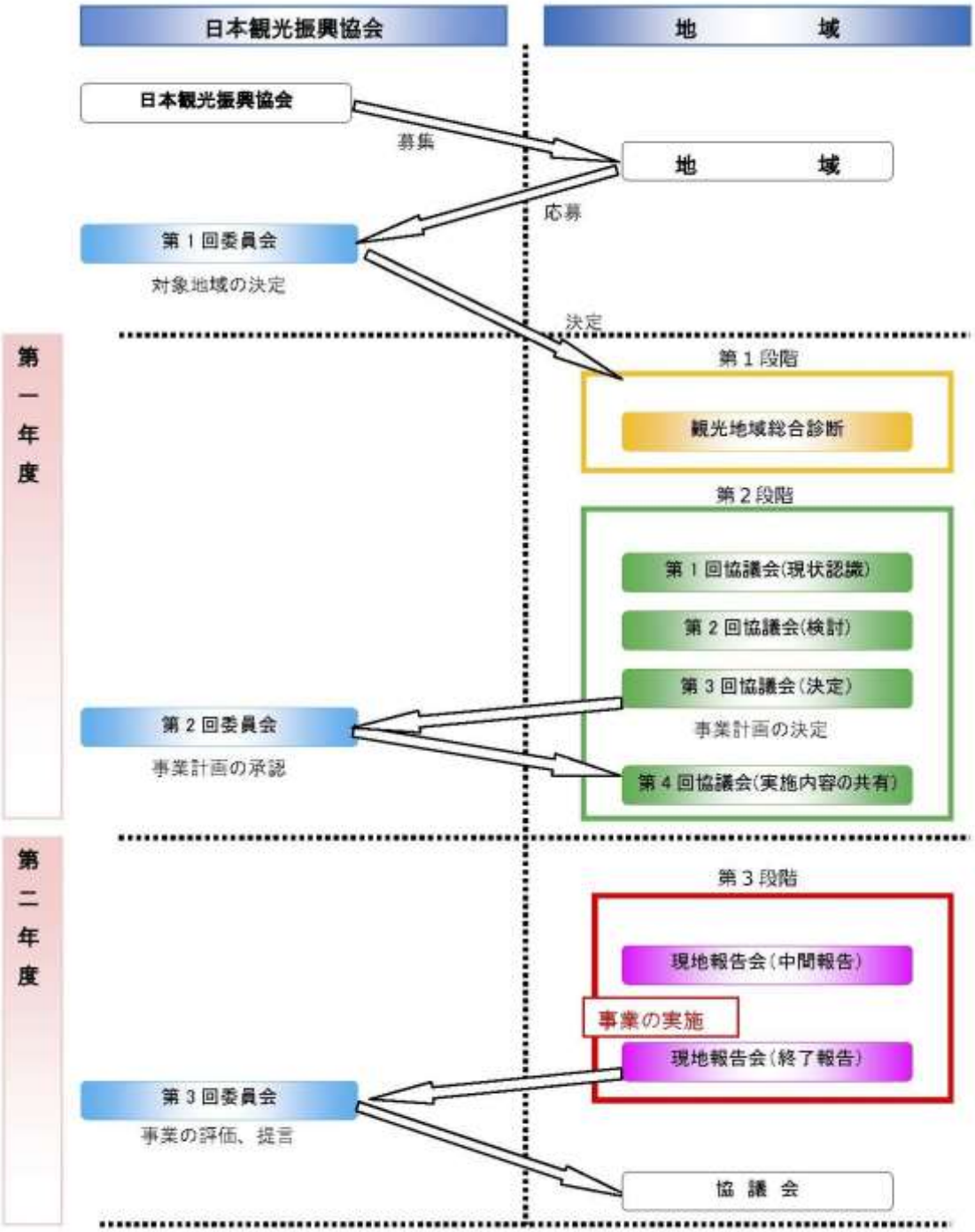
（様式３－３）

「魅力ある観光地域づくり推進モデル事業」計画書

過去の取り組み実績	からつ観光協議会としての過去の実績はなし。 市内事業者と行政の連携事業としては以下のとおり。 ①旅館組合、行政による旅づくり塾の開催 　コンテンツ開発「朝からつご飯」
本モデル事業実施期間中に実施したいこと･スケジュール	①観光未来塾（セミナー、ワーキンググループ）の開催 　多業種同士で刺激しあうことで、意識改革を図る 　・若手メンバーに現状分析とアイデア会議 　・お客様視点を重視した意識改革のためのセミナー開催 ②トライアル事業を交えた社会実験 　実践を交えてリーダーとしての能力を育む 　・イベントやクルーズ入港時に各種関係団体が連携したお客様のお出迎えの実施（実践を踏まえたげ課題抽出と検証） 　・各種事業所と連携した事業提案と実施 　※市内連携事業または県域を越えた広域連携事業
本モデル事業終了後の予算措置の可能性	事業終了後も、若手による観光未来塾チームの開催を行うことと考えており、開催するテーマや手法はその都度異なる可能性はあるが、リーダーの人材育成については、継続して実施していくことを考えている。 　また、からつ観光協議会では観光戦略を３年スパンで見直しを図ることを計画しており、リーダー育成のような取り組みについては、地域戦略の柱として位置づけられることが想定され、地域のモチベーション維持または向上対策並びにお客様のロイヤリティ向上のためには欠かせない取り組みとして指向することが望ましいことから、予算措置については市としても配慮したい。

その他のアピールポイント	・唐津市としては、現在の状況を危機的なものと捉え、これからの観光振興には、行政主導ではなく、市民、企業、団体、行政などがパートナーシップを持ってオール唐津で創りあげる観光振興に取り組むこととしている。 ・平成２６年は、オール唐津で観光振興に取り組むためのプラットフォームとなる「からつ観光協議会」が設立され、唐津市議会議員全員による「からつ観光議員連盟」の発足がなされるなど、唐津自体が観光に本気で取り組まなければならないという機運が高まっている。 ・佐賀県も国際・観光部が新設され、観光に特化していく方針を打ち出す。 ・佐賀県観光戦略には、これまでの取組で反省すべき点として「個々の事業が分野を超えて互いに連携し合う取組をさらに強化する必要がある」とされており、各地域での勉強会を立上げ、観光の担い手について重点を置くような方向性も示されている。 ・このような背景もあり、唐津市としては、唐津が一丸となるための協議会設置に取り組んだものであり、唐津の観光イメージの確立に先駆けて、唐津観光未来塾で地域の意識改革とニューリーダー育成をモデル事業として取り組みたいと考えている。

＊本モデル事業の実施フロー



＊観光地総合診断調査

この調査は、既往観光振興計画、観光関連統計等の文献調査、現地での観光資源・施設の現況調査、行政や観光協会・観光事業者等へのヒアリング調査等により、観光を取り巻く状況、課題、課題解決のための施策などを明らかにするともに、「地域の意識改革と唐津市のニューリーダー育成」の観点から事業計画作成の方向性等について、観光地域総合診断として明らかにしたものである。(平成 27 年 9 月に観光地総合診断調査報告書を作成)

１．観光を取り巻く状況

（１）観光特性

①立地特性

・唐津市は、九州の西北部・玄界灘に接して位置している。行政区域は東西方向に約３０ｋｍ、玄界灘～唐津湾の海岸線から内陸部に約３ｋｍから約１５ｋｍの区域であり、唐津湾を囲むような形状（面積約 487.54 ㎢）となっている。

・周辺都市には福岡・博多、伊万里、有田、佐世保、ハウステンボス、武雄、嬉野、長崎などの観光都市・観光地があり、主要交通網も充実していることや、豊富な観光資源の存在（後述）から、福岡・博多～長崎間の広域観光移動のルート上に位置している。

・この立地位置を唐津市から見ると、福岡・博多の大都市、武雄や嬉野の温泉地、焼き物で有名な伊万里・有田、歴史的観光都市長崎などへのアクセスの利便性に優れていることが指摘できる。

・人口１５０万人を擁する福岡市と唐津市間は、車で約１時間程度の時間距離にあり、福岡市からは日帰り観光の対象地との性格も有している。

・唐津市の人口は、約 126,700 人（平成２７年６月）であり、唐津市の独自推計によれば、平成５２年には約 84,100 人（３４％減）となると推計されている。

唐津市の位置

表１－１－１　主要交通網

名　称	概　　要
国道２０２号	福岡方面～唐津市を結ぶ海沿いを東西に走る国道、および唐津市～有田・佐世保方面を南北に走る国道。
国道２０４号	唐津市中心部～松浦半島海岸沿い～伊万里方面を結ぶ国道。
国道２０３号	唐津市～佐賀方面を結ぶ松浦川・厳木川沿いを走る国道。
国道３２３号	唐津市～佐賀・古湯温泉を結ぶ国道。
西九州自動車道	唐津市～福岡方面を結ぶ自動車専用道路。将来は唐津市～松浦～佐世保～長崎が結ばれる予定。
ＪＲ筑肥線	唐津市～福岡方面、および唐津市～伊万里方面を結ぶ鉄道。
ＪＲ唐津線	唐津市～佐賀方面を結ぶ鉄道。
高速バス	唐津市～博多・天神・福岡空港を結ぶバス路線。

②自然特性

・唐津市は、海山川平地の多様な自然風景を有している。海は、唐津湾の穏やかな海をはじめ、玄界灘の波濤が打ち寄せる松浦半島海岸部の海、松浦半島沿岸部の入組んだ海岸線湾内の湖面のような海など、“静”および“動”の表情豊かな海の風景を見ることができる。

・また唐津市は、６つの島があり、湾のほぼ中央に高島、東松浦半島を取り囲むように神集島、小川島、加唐島、松島、馬渡島、向島が位置している。

・なお本市の海岸部一帯は全て玄海国定公園に指定されており、波戸岬、松浦半島海岸部、虹の松原、鏡山などは、玄海国定公園第１種～第２種特別地域に指定されている。

・山地は、御椀を伏せたような形状が特徴的な標高約 280mの鏡山をはじめ、南側の行政界には標高 1046mの天山や標高 763mの八幡岳の山など、唐津市は特徴的な稜線を持つ山地の風景を有している。

・河川は、渓流風景が魅力の滝川から広い川幅に緩やかに流れ、シラウオでも有名な下流の玉島川の風景や、アユも生息する厳木川および徳須恵川を上流として、唐津市の中心部を約４００m程度の川幅に、唐津城を背景に唐津湾へと滔々と流れる松浦川の風景などを有している。

・平地は、南側の山地形を背景として、松浦川流域を中心に唐津湾に面して広大に広がっており、唐津湾および松浦川の河口付近に唐津市の中心部がある。

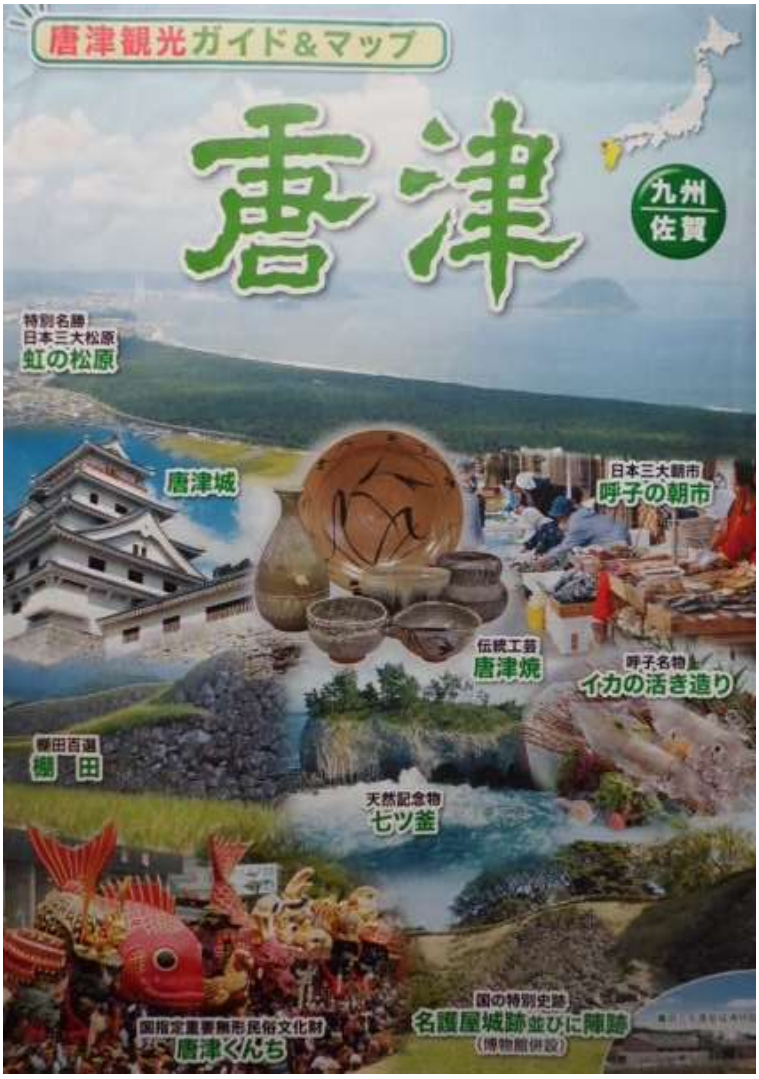
③観光資源

・唐津市の観光資源について見ると、地域の歴史、自然、文化の蓄積を背景に多種多様な観光資源が豊富に存在している。

・主な観光資源について、唐津市発行の「唐津観光ガイド&マップ」では、次ページ以降のようなものが紹介されている。

・また同ガイド&マップの表紙には、特別名勝　日本三大松原「虹の松原」、「唐津城」、伝統工芸「唐津焼」、日本三大朝市「呼子の朝市」、呼子名物「イカの活き造り」、棚田百選「棚田」、天然記念物「七ツ釜」、国指定重要無形民俗文化財「唐津くんち」、国の特別史跡「名護屋城跡並びに陣跡」などが掲載されている。

・なお虹の松原は、「Excellent　JAPAN 美しき日本　　いちどは訪れたい日本の観光資源」（１９９９年（財）日本交通公社発刊）で、我が国を代表する観光資源３９１件のひとつとして選定・紹介されている（後掲）。



唐津観光ガイド＆マップ表紙

表１－１－２　主な観光資源

地区・名称		概　　要
唐津	旧高取邸	約 2,300 坪の敷地に建つ、炭鉱主であった高取伊好（これよし）の旧邸。和風を基調としながら洋間をあわせ持つ近代和風建築で国指定重要文化財。
	旧唐津銀行	辰野金吾の弟子田中実が設計、辰野金吾が監修した歴史的建築物。 明治４５年に竣工し、平成９年まで銀行として営業された。
	宝当神社	宝当の名前から、多くの宝くじファンが訪れる神社。高島にある。
	曳山展示場	唐津くんちの曳山が展示されている展示場。
	七ツ釜	玄武岩でできた溶岩台地に海食でできた七つの洞窟。玄界灘の波がよせる風景に七つの洞窟が並ぶ国の天然記念物。
	末盧館	日本稲作発祥の地である菜畑遺跡の展示施設。 日本稲作発祥の地「菜畑遺跡」に立地。
	唐津城	唐津の初代藩主寺沢志摩守広高により築城された城。 現在の唐津城は昭和４１年に復元された。
肥前	ぼたんと緑の丘	世界のぼたん８０種 2,500 株と芍薬３０種３万本が植えられた公園。
	いろは島	大小４８島々のからなる風景。その絶景に弘法大師が筆を投げたとの伝説がある。
	増田神社	明治２８年、村をコレラから守り殉職した警察官をまつる全国唯一の神社。
	鷹島肥前大橋展望広場	農産物直売所「ひぜん夢美咲」が立地。 長崎県と佐賀県を結ぶ「鷹島肥前大橋」を一望できるビューポイント。
呼子	呼子朝市	元旦を除く毎日午前中、町の通りを会場に開催。日本三大朝市のひとつ。商店はじめ出店で魚介類などを販売。
	呼子大橋	全長７２８ｍの大橋。夕日を背景に橋のシルエットが魅力ある風景となっている。
	鯨組主　中尾家屋敷	明治の初めまで捕鯨の鯨組主であった中尾家の町屋建築の遺構。
	風の見える丘公園	呼子大橋など３６０度の風景が楽しめる丘。展望所を兼ねたレストハウスがある。
	呼子台場みなとプラザ	新鮮な魚介類や農産物、特産物などを販売、紹介する施設。テラスでは、購入した食材でバーベキューもできる。
	加部島　杉ノ原　放牧場	加部島にある放牧場。展望所や遊歩道が整備されている。玄界灘を一望できる。

表１－１－３　主な観光資源（つづき）

地区・名称		概　　要
鎮西	名護屋城跡および陣屋	豊臣秀吉が文禄・慶長の役で出兵拠点として築城した城跡。桃山時代の城郭としては最大級。国の特別史跡。 城跡周辺には全国諸大名の陣屋跡が１００以上存在する。
	佐賀県立名護屋城博物館	名護屋城跡及び陣屋の保存整備事業の中核施設。名護屋城および日本と朝鮮半島の交流を紹介する博物館。 朝鮮半島との友好・交流の推進拠点。
	波戸岬と玄海海中展望塔	東松浦半島の最西北端の岬。 海中展望塔では水深 7mの海中の様子を鑑賞することができる。
	加唐島・松島・馬渡島	大陸交通の中継地や文化交流の歴史を持つ玄界灘にある島。
	茶苑　海月	名護屋城跡の一角に整備された抹茶と和菓子を提供する茶室。
	道の駅　桃山天下市	地元の農産物・海産物の直売、物産館食事処などからなる道の駅。 名護屋城跡の近くに立地。
北波多	岸岳法安寺（八十八カ所）	波多氏一族とその家臣一同の霊を慰めるために大正 12 年に建立された寺。日本一の石仏と称される釈迦涅槃像の他、つつじやあじさいの名所。
	岸岳城跡	標高３２０ｍの急峻な岸岳の山頂稜線に築かれた中世山城の城郭遺構。
	岸岳古窯跡	唐津焼発祥の地で、現存する日本最古の割竹式登り窯跡。
	岸岳ふるさと館	地元の農産物の販売や、唐津焼などの特産品の陳列紹介、販売などの施設。
浜玉	虹の松原	唐津湾沿いに全長約５ｋｍ、幅約１ｋｍで帯状に広がる松林。日本三大松原のひとつで国の特別名勝。17 世紀のはじめ、唐津藩主寺沢広高が新田開発の一環として防風林、防砂林として植樹したものと言われている。現在は国有林の保安林。玄海国定公園の第１種特別区域。
	浜崎海岸	虹の松原から連なる海岸。海水浴をはじめボートセイリングなどのマリンスポーツの場として利用されている。
	りんご、ぶどう狩り	夏から初秋にかけて、地域のりんご、ぶどう栽培農家で提供している収穫体験。
	猪堀の滝	落差 13m の男滝と落差 5m の女滝の２段からなる滝。「森林浴の森１００選」に選ばれた森の中にある。
七山	鳴神温泉ななのゆ	温泉、休憩処、味処、マッサージ室、ウッドデッキなどからなる温泉施設。温泉の他に食事や休憩ができる。
	鳴神の庄	地元の農産物を販売する施設。
	樫原湿原	七山の山間地標高６００ｍの湿原。四季折々の湿原ならではの植物を鑑賞できる。国の重要湿原に指定。
	観音の滝	落差４５ｍの滝で、日本の滝百選に選ばれている。周辺の８つの滝を結ぶ遊歩道もある。

表１－１－４　主な観光資源（つづき）

地区・名称		概　　要
相知	見帰りの滝	男滝と女滝からなり、日本の滝百選に選ばれている。アジサイや紅葉が楽しめるほか、夏は川遊びも楽しめる。
	蕨野の棚田	八幡岳の標高 150～420 メートルの斜面約４０ヘクタールの棚田。
	鵜殿石仏群	岸壁に大小６０ほどの石仏が彫られている石仏群。中世の山岳信仰の面影を残している。
	佐里温泉	松浦川上流の河畔に位置する温泉。大正 5 年に発見された弱アルカリ温泉。
厳木	道の駅　厳木風のふるさと館	風のイメージした休憩所や、地元の農産物などを販売する施設などからなる道の駅。巨大な佐用姫の像が目を引く道の駅。
	きゅうらぎ温泉佐用姫の湯	県内屈指の単純アルカリ泉。 岩盤浴、サウナ、家族風呂などからなる。
	環境芸術の森	作礼山南西斜面に位置する紅葉の森造りに取り組む約 18ha の私有林。四季折々の自然も楽しめる。
	厳木川	天山を水源として、鮎・ヤマメなどの渓流釣りが楽しめる川。

表１－１－５　主な観光資源（花）

地区	種類	概要	見ごろ
唐津	唐津城の藤・桜	藤は樹齢１００年以上と言われている。 唐津城は、桜の名所でもある。	４月下旬～５月上旬
鎮西	ユウスゲ	同地区の串地区は、九州でも有数の群生地。 ユウスゲはユリ科の植物で、黄色い花が咲く。	６月下旬～８月中旬
肥前	切木ぼたん	個人邸の庭で、１株に大小５００もの淡い紅色の八重の花が咲くぼたん。４００年前に家臣が岸岳城から持ち帰って育てたという言い伝えがある。	４月上旬
北波多	志気（しげ）のシャクナゲ	樹齢約２００年の４株、樹齢４０年前後が２０株ほど植えられている。	４月中旬
浜玉	しだれ梅	数軒の民家に植えられており、中には樹齢１００年を超える梅もある。見ごろの季節には、見学もできる。	２月中旬～３月上旬
七山	サギソウ	樫原湿原に咲くラン科の植物。白い花が咲く。国のレッドデータブックにも記載されている。	８月
相知	あじさい	５０種４万株が見帰りの滝周辺と約１km の遊歩道沿いに咲く。「あじさいまつり」も開催する。	６月～７月
厳木	シャクナゲ	天川地区に自生する他、本立寺のしゃくなげの満開に合わせて「しゃくなげまつり」も開催する。	４月下旬～５月上旬

表１－１－６　食（「唐津のイチ押しグルメ」）

名　　称	概　　要
佐賀牛	JA グループ佐賀管内肥育農家で飼育された黒毛和種で、(社)日本食肉格付協会の定める牛取引規格の最高の肉質である「5」等級および「4」等級の BMS「No.7」以上の牛肉。 唐津市は県内最大規模の佐賀牛の生産地となっている。
松露饅頭	餡をカステラ生地で丸く包んだ和菓子で、江戸時代から作られていると言われている。形が虹の松原に生えるキノコの松露に似ていることから、この名がつけられている。唐津土産の定番と言われている。
イカの活き造り	呼子の新鮮なイカで造られ、新鮮なイカ本来の歯ごたえや甘みを味わうことができる。唐津市へ訪れてこそ味わえる逸品。
朝からつごはん	佐賀県産の米、玄界灘の魚、新鮮な地野菜などを使った「朝からつ茶漬け」を中心に、市内１１軒の宿泊施設で提供している朝ごはん。

表１－１－７　食（地元の食）

地区・名称		概　　要
呼子	イカ、アジの一夜干し、	天日干しで造る呼子名物。軽くあぶって食べる。 風味が良く、酒の肴等として人気がある。
	イカしゅうまい	呼子で水揚げされたイカを使ったしゅうまい。 手軽に食べられる一品として人気がある。
鎮西	サザエのつぼ焼き	波戸岬の店舗群で提供されるサザエのつぼ焼き。波戸岬の名物として知られている。
唐津	海鮮料理（寿司など）	玄界灘で水揚げされた魚介類の料理。特に市役所近辺には多くの店舗がある。
肥前	はまてん	春から９月頃までの天然の小魚を使用したすり身。 揚げ物などとして地元でも日常的に食べられている。
北波多	梨と茶	梨は幸水、豊水、新高などの品種が生産されている。 お茶は県内第二の生産地。
浜玉	けいらん	うるち米を原料とした生地で、あんこを巻いた和菓子。 太閤秀吉にも献上されたと伝えられている。
七山	川魚料理	鮎やヤマメの塩焼きや刺身の他、七山で獲れる「つがに」を丸ごと炊き込んだ「つがにめし」が知られている。
相知	棚田米「蕨野」	蕨野の棚田で、新品種「夢しずく」の栽培から生まれたブランド米。
厳木	佐用姫だんご	平べったい団子の中にあんこが入った饅頭。あんこは地元産の小豆を使用している。

イカの活き造り

佐賀牛

表１－１－８　唐津焼

名　称		概　　要
色絵付景色などによる名称	絵唐津（えからつ）	素地に鬼板で文様を描き、施釉して焼成したもの。
	斑唐津（まだらからつ）	表面に青や黒の班がぽつぽつと現れたもの。
	粉引唐津（こひきからつ）	素地が生乾きの褐色粘土に化粧土をかけて乾燥させた後に施釉して焼成したもの。
	朝鮮唐津（ちょうせんからつ）	鉄釉と藁灰釉の２種を使い、釉の流れる景色を表現したもの。
	三島唐津（みしまからつ）	生乾きのうちに、印花紋などの文様を施し、化粧土を塗り、削りや拭き取り仕上げ後、施釉して焼成したもの。
時代区分や窯による名称	古唐津（こがらつ）	桃山時代から江戸時代初めにかけて焼かれたもの。素朴でおおらか、大胆な鉄絵模様が特徴と言われている。
	献上唐津（けんじょうがらつ）	享保１９年（１７３４年）から明治廃藩置県まで、唐津藩の御用窯（唐津・唐人町の御茶盌窯）で作られたものを示す名称。

（参考）唐津焼について

・唐津焼は、土の味わいと素朴な作風が特徴の焼物と言われており、桃山時代から江戸時代初期にかけて大量に生産され、唐津港から日本各地をはじめ東南アジアまで輸出され、また「からつもの」と言えば、西日本の焼き物の代名詞にまでなったほどの隆盛をみた。

・江戸中期以降、唐津焼は一時衰退したが、現・唐津市で生まれた中里無庵氏（人間国宝）が、桃山時代の古唐津の復興に尽力し、また民芸ブームなどにより唐津焼が再び注目されるようになった。

・今日の唐津焼は、中里氏が復元した古唐津がベースとなっていると言われており、現在では市内に約７０の窯元があり、多種多様な唐津焼が生産されている。

・唐津焼は、色、絵付、景色などにより、それぞれに名称がつけられており、代表的な名称としては上表のような名称がある他、作品が作られた時代区分や窯によっても異なる名称がつけられている。

・唐津焼は古くからの歴史、渋い味わいなどから、今でも日本を代表するやきもののひとつとして周知されており、名実ともに唐津を代表する伝統工芸となっている。

唐津焼と盛り付け例

表１－１－９　お祭り・イベント

名称	概　　要	開催月日
呼子大綱引 （呼子）	豊臣秀吉が将兵の士気を鼓舞するため、加藤清正と福島正則の両陣営を東西に分けて、軍船の綱を使ったことから始まったと言われている。岡組が勝てば豊作、浜組が勝てば大漁と言い伝えられている。国の重要無形民俗文化財。	６月第１土日
徳須恵祇園祭 （北波多徳須恵）	無病息災と豊作祈願を込めて山笠が町を練り歩く。２５０年以上の歴史を持つ唐津市北波多・徳須恵地区の夏の伝統行事。	７月
浜崎祇園祭り （浜崎）	高さ１５ｍ、重さ約５トンの巨大な山笠を引き回す行事。灯りを燈した山笠が諏訪神社境内で何回も旋回する「大まぎり」が祭のクライマックス。	７月第３または第４土日
国際渓流滝登り （七山滝川）	１チーム５人の団体戦と個人戦で、全長５ｋｍの渓流を、泳いだり、滝を登ったりしながら２時間３０分を目標にゴールを目指す。去年は２５カ国１４１６人が参加した。	７月または８月
波戸海中盆綱引 （波戸漁港）	豊臣秀吉が将兵の慰安と盆供養を兼ねて実施したと言われる伝統行事。漁師の仕事着を着た若者達が海に飛び込み、直径４０㎝、長さ３０ｍの大綱を引き合う。	８月１５日
納所くんち （納所東）	納所住吉神社の秋祭。五穀豊穣を願い、男女の顔が滑稽に描かれた袋を被って踊る「ガメ踊り」が奉納。納所の海岸に流れ着いた神様の書物に由来した踊りと言われている。	９月
浮立 （星領・広瀬・天川、他）	浮立（ふりゅう）は、佐賀県を中心分布する民俗芸能。太鼓や鉦（かね）を打ち鳴らして集団で踊る。山間の地区で行われている。	９月～１０月
相知くんち （相知）	熊野神社の大祭。羽熊（はぐま）行列を先頭に、御神輿行列、稚児行列、山笠行列などが練り歩く。羽熊行列では、毛槍を投げ渡しながら行進する。	１０月中旬
唐津くんち （南城内）	唐津神社の秋季大祭。漆と和紙を材料とした乾漆技法で造られた豪華絢爛な１４台の巨大な曳山が、囃子と掛け声とともに旧城下町を練り歩く。国の重要無形民俗文化財。	１１月２日～４日

・これらの祭・イベントの他に「年間予定」として、伝統行事、ウォークイベント、スポーツイベント、花火大会、焼き物まつり、農産物のまつりなど、さまざまな祭・イベントが紹介されており、なかでも７月には１０種類の祭・イベントが開催されている。

唐津くんち

呼子大綱引

【宿泊施設】

・唐津市の宿泊施設は６４軒（平成２６年９月時点）の電話番号、定員、参考宿泊料金が紹介されている。

・これらのうち２７軒・約４２％が唐津市の中心部（唐津地区）に立地しており、次いで呼子地区に１２軒・約１９％、鎮西地区に９軒・約１４％などの順となっている。

・唐津地区においては、ホテルおよび旅館が立地しており、定員１０名から定員７３６名までの、幅広い規模の宿泊施設からなっている。

・呼子地区においては旅館や民宿が中心であり、定員１３名から定員１２０名までの規模の宿泊施設からなっている。

・その他の地区においても、旅館、民宿、国民宿舎などが立地しており、地区ごとの魅力を活かしながら、市域全体でそれぞれのニーズに応じた宿泊客を受け入れている。

ホテル、旅館ともに幅広い規模の宿泊施設からなる唐津地区（虹の松原近辺）

【唐の津　風景街道】

・この街道は、「市内の景勝地、観光資源が多数点在し、ドライブに最適な周遊ルート」として、マップ上に紹介されている。

【「Excellent　JAPAN 美しき日本　いちどは訪れたい日本の観光資源」＝虹の松原】

・虹の松原は、「Excellent　JAPAN 美しき日本　いちどは訪れたい日本の観光資源」（１９９９年（財）日本交通公社発刊）で、我が国を代表する観光資源３９１件のひとつとして紹介されている。
・観光資源の選定にあっては、「優れた自然、歴史や文化そのもので、現代の金と時間では創り出すことができない、固有性、独自性を持ち、代替がきかない」ことに重点を置き、なかでも特に「我が国を代表して世界にアピールでき、かつ我が国の基調となる」観光資源を中心に選定されている（ここでの観光資源は、「観る」、「見る・学ぶ」対象）。
・選定にあたっての視点は、「観光資源台帳」特Ａ級とＡ級であることを原則に、「美しさ」、「大きさ」、「珍しさ」、「古さ」、「静けさ」、「地方色」の６の視点から、客観的データと専門家の判断により総合評価を行い、「日本に生まれたからには、一生の間に是非一度は見ておいた方が良い、と自信をもってお勧めできる観光資源」として紹介されている。

特Ａ級およびＡ級の内容

特Ａ級：	わが国を代表する資源でかつ世界にも誇示しうるもの。わが国のイメージ構成の基調となりうるもの
Ａ級：	特Ａ級に準じ、その誘致力は全国的で観光重点地域の原動力として重要な役割をもつもの

選定にあっての６つの視点

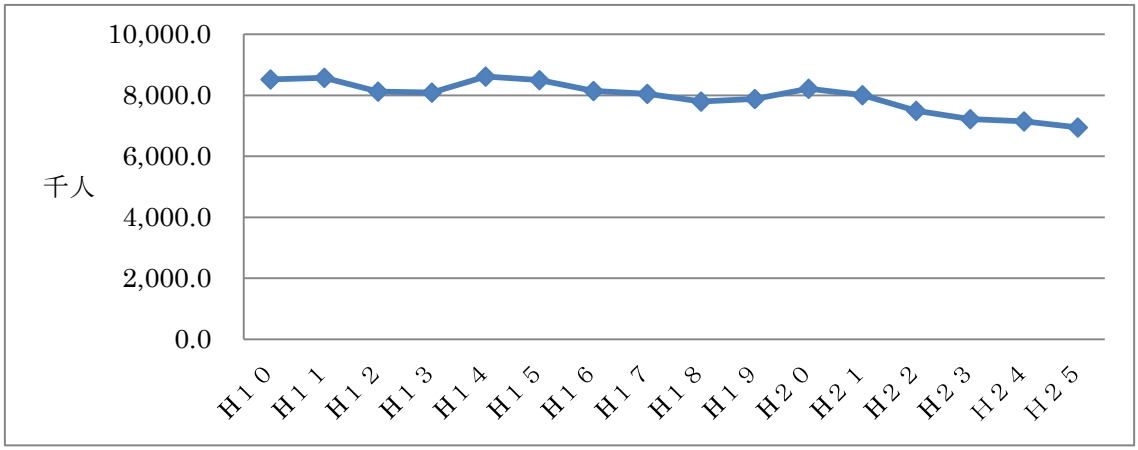
「美しさ」：	観光資源の最も主要な要素。名所や名勝的なものはこの要素によるケースが多い。
「大きさ」：	長さや高さもこの範疇に入る。雄大さゆえに人間の小ささを感じさせるといった素朴な意味合いも強い。
「珍しさ」：	奇岩や奇景の類が相当。希少価値、好奇心を満足させてくれるような資源。
「古さ」　：	懐かしさなどとして我々に落ち着きとやすらぎをもたらしてくれる。
「静けさ」：	静寂さは「古さ」と同様、我々に落ち着きとやすらぎをもたらしてくれる。
「地方色」：	郷土景観や田園風景から感じる生活のにおいは、ことのほか観光客にアピールするもの。

（２）観光客の状況　～観光客動態調査データベースより～

①日帰り観光客数の状況

・唐津市の日帰り観光客の推移を見ると、平成２３年からの推計方法変更（観光庁による共通基準を採用）を留意すると、ここ数年は７００万人程度で推移ないしはやや減少している様子がうかがえる。

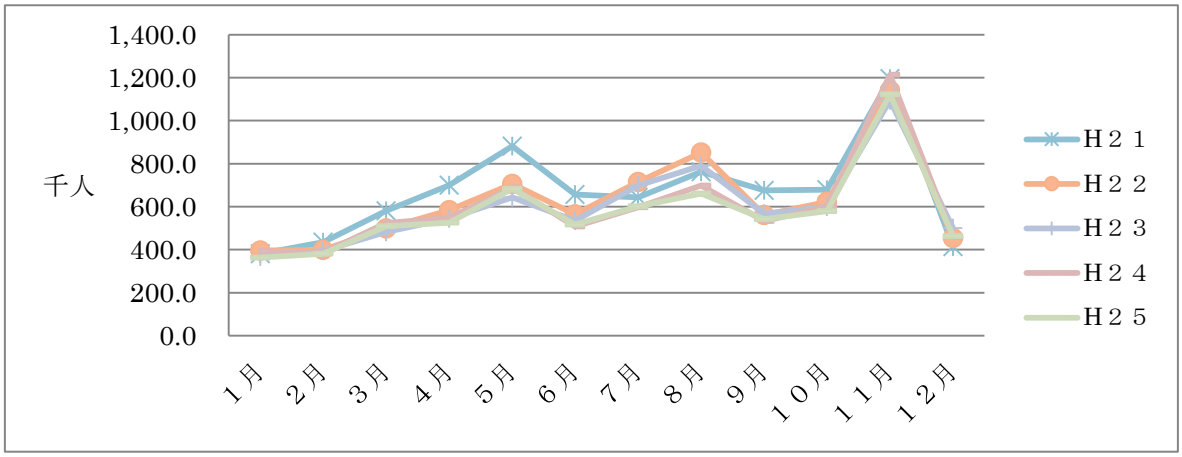
図１－２－１　唐津市の日帰り観光客の推移



・月別の変動を見ると１月から４月に向けて観光客は増加傾向にあり、６月にいったん減少後、７月から８月にかけて再び増加傾向を示し、１１月に急激な増加がある。

・これは「唐津くんち」開催によるものと考えられ、「唐津くんち」開催日の１１月の数日間に多くの観光客が訪れて、「唐津くんち」と併せて、いくつかの観光資源に立ち寄っている結果と考えられる。

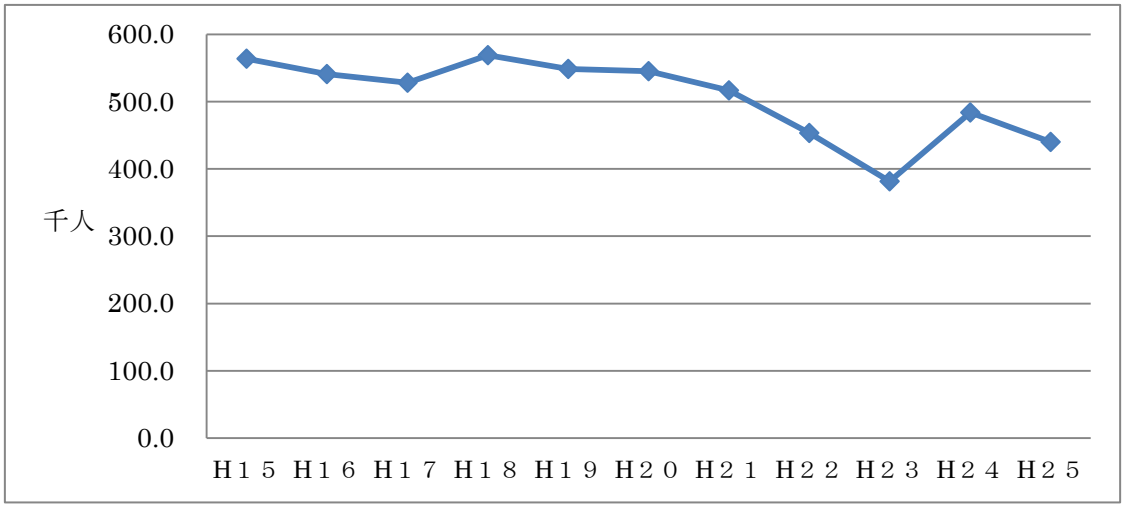
図１－２－２　月別日帰り観光客数



②宿泊観光客数の状況

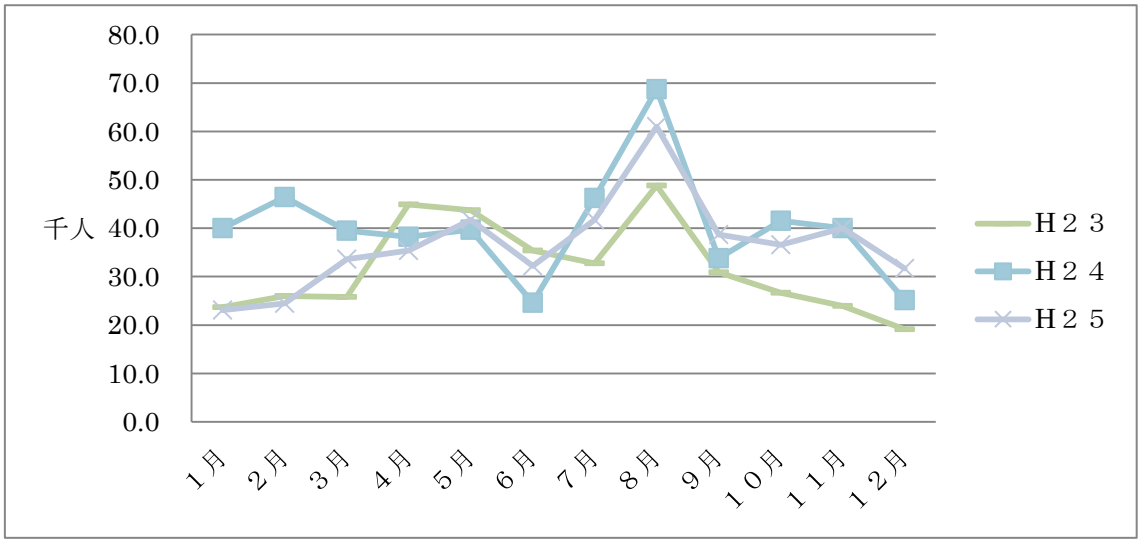
・宿泊観光客数については、日帰り観光客の推移と同様、平成２３年からの推計方法変更（観光庁による共通基準を採用）を留意すると、平成２４年に５０万人近くの宿泊客数があり前年より約３割程度増加したが、平成２５年には約４４万人と前年から１割程度減少している。

図１－２－３　唐津市の宿泊観光客数の推移



・月別の宿泊客数の変動を見ると、年によるバラつきがあるものの、いずれも８月の宿泊客数が最も多い様子がうかがえ、次に多い宿泊客数は４月、５月、１０月、１１月の春と秋にある様子がうかがえる。

図１－２－４　月別宿泊観光客数



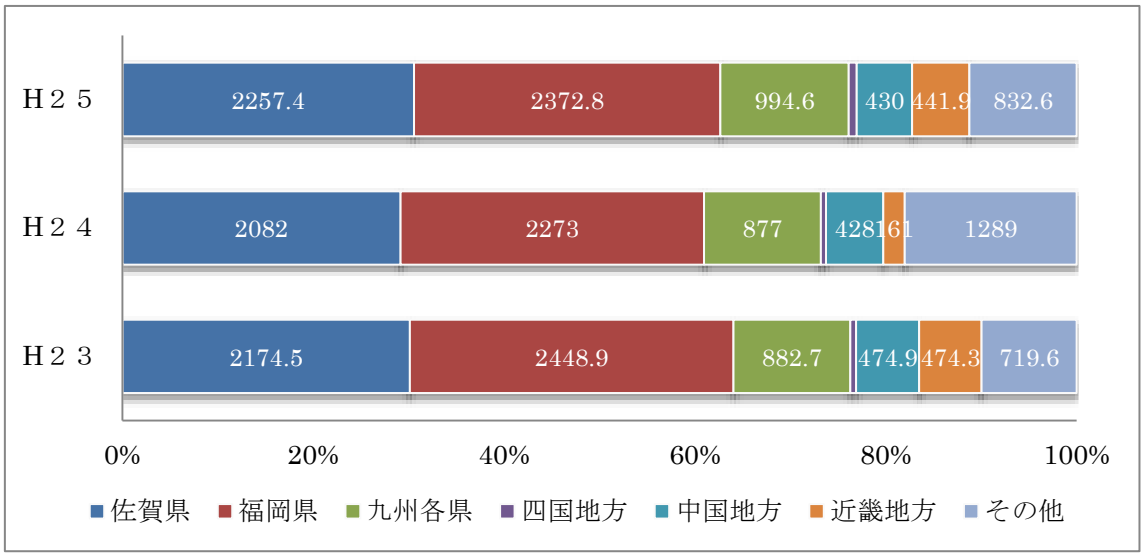
③発地別観光客数の状況

・発地別観光客数の状況を見ると、いずれの年も佐賀県内および福岡県を発地とする観光客数の割合がそれぞれ３割程度、合計でほぼ６割程度を占めている状況にある。

・次いで、佐賀県および福岡県を除く九州各県となっており、これらを合わせた九州地方を発地とする観光客数が全体の約８割近くを占めている。

・なお中国地方を発地とする観光客数の割合は、いずれも６％前後で最も低い割合となっている。

図１－２－５　発地別割合



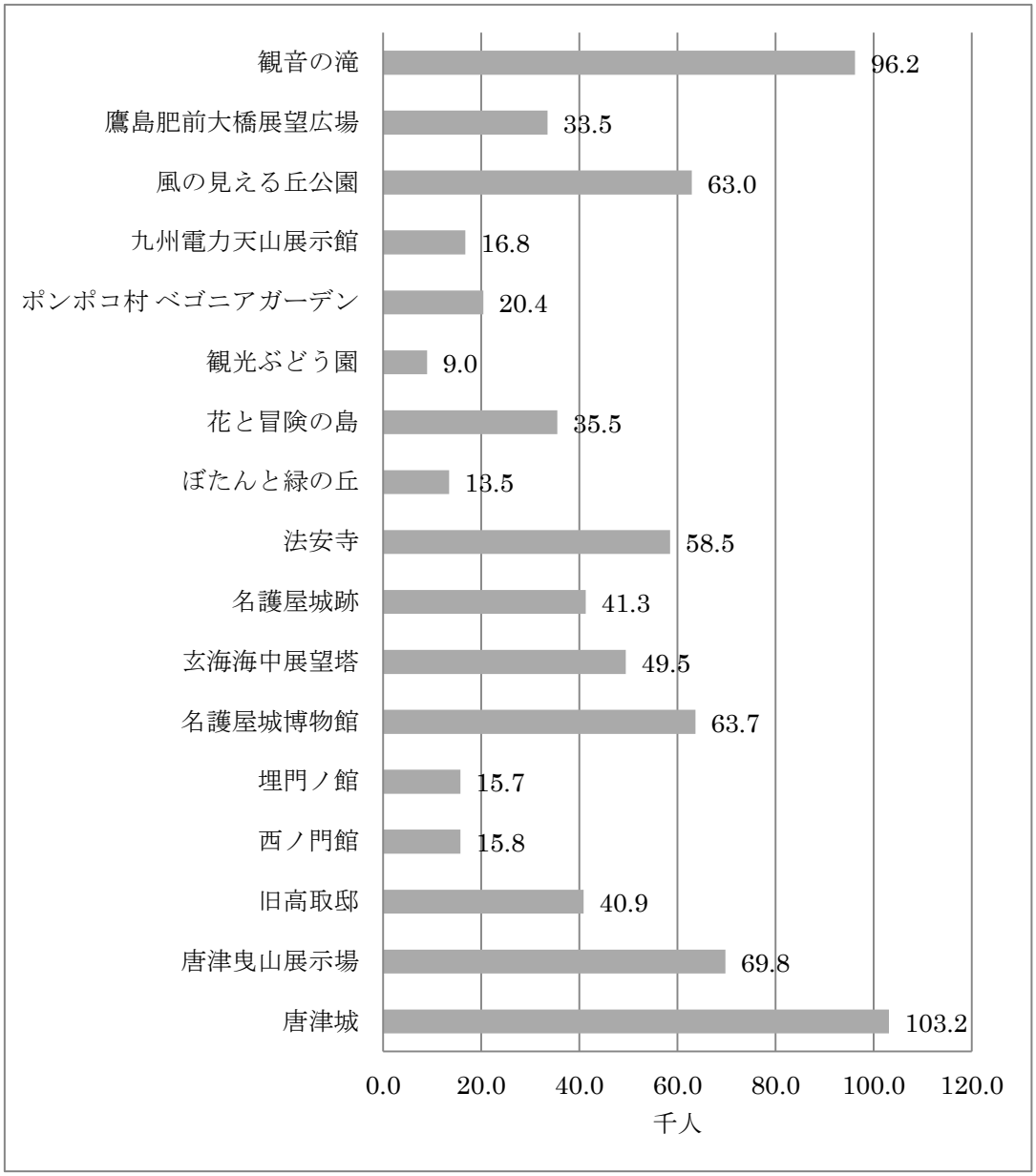
グラフ中の数字単位：千人

④観光地点別入込数

・観光地点別の観光入込客数について見ると、観光資源・施設では唐津城が最も多く、約１０万人、次いで観音の滝が９万６千人となっている。

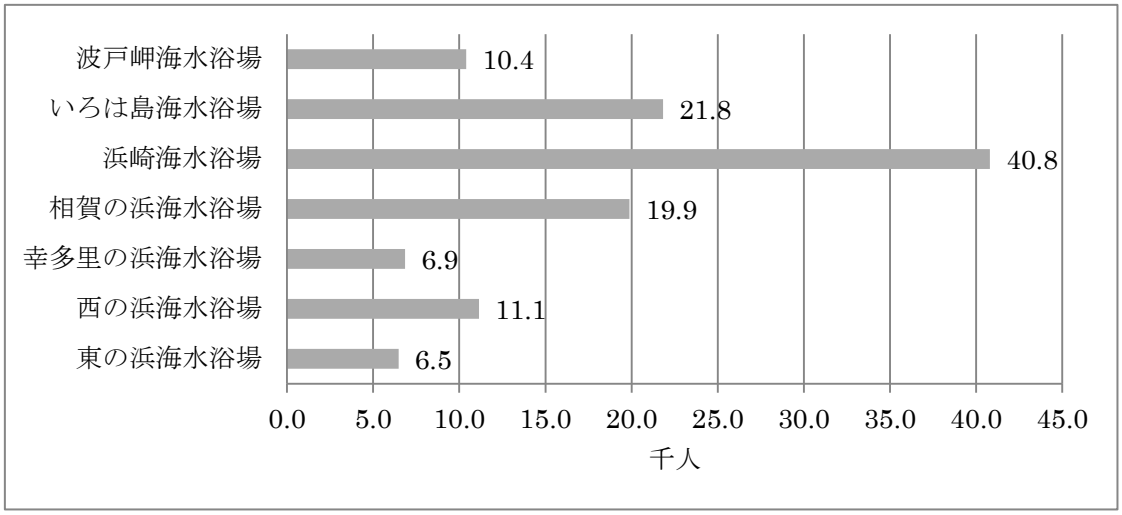
・さらに、風の見える丘公園、名護屋城博物館、唐津曳山展示場で、６万人代の入込がある。

図１－２－６　観光資源・施設別入込（平成２４年）



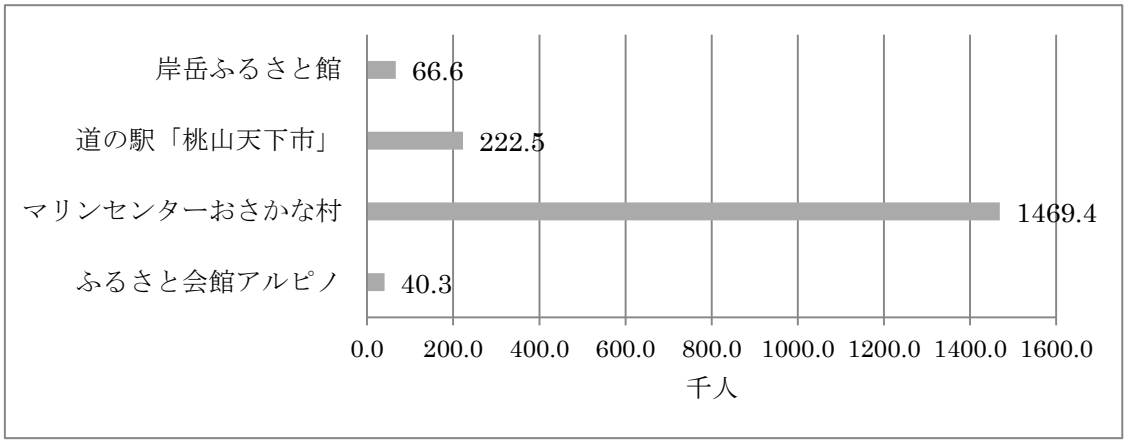
・海水浴客の入込は、浜崎海水浴場が最も多く約４万人と特化しており、次いでいろは島海水浴場が約２万２千人、相賀の浜海水浴場が約２万人となっている。

図１－２－７　海水浴客入込（平成２４年）



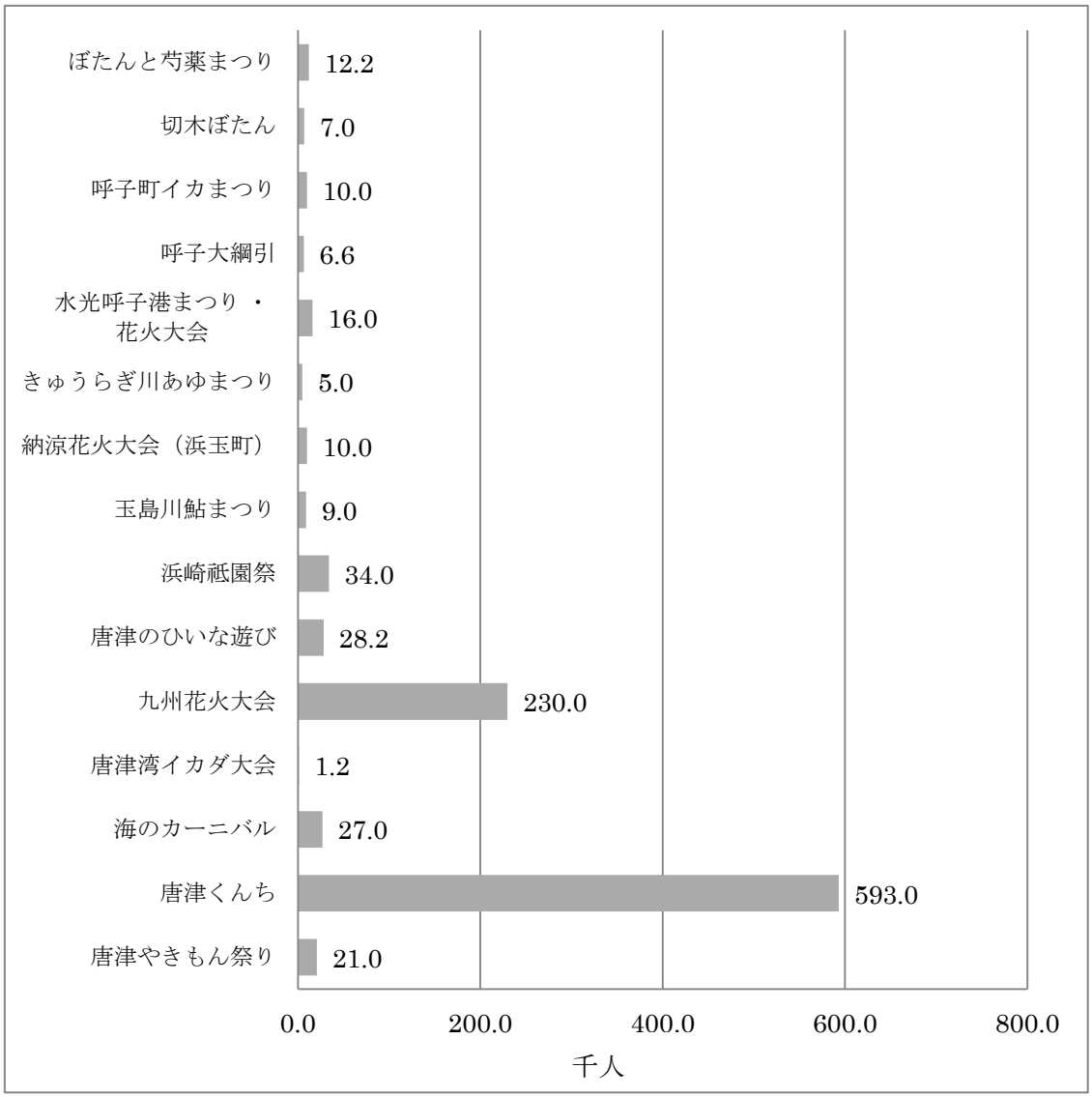
・直売所などの入込数を見ると、マリンセンターおさかな村が、約１４７万人と特化している様子がうかがえる。
・これは、唐津市の東西軸の幹線である国道２０２号沿いに立地していることや駐車場が十分に整備されていること、品数の豊富さなどから、背景にあるものと考えられる。

図１－２－８　直売施設などの入込（平成２４年）



・行催事の入込は、唐津くんちが約５９万人と突出しており、次いで九州花火大会が２３万人となっている。
・唐津くんちをはじめ、九州花火大会の、誘客力の高さがうかがえる。

図１－２－９　行催事の入込（平成２４年）



⑤観光消費額

・観光消費額については、年間消費額は平成２５年で約２６７億円と推計されており、前年より４％減少している。

・項目別に消費額の割合を見ると、飲食費が３５％、土産費が２７％、交通費が１６％、宿泊費が１５％の割合となっており、いずれの年もこれらの割合に大きな変化は見られない。

・日帰り観光客および宿泊観光客数の総数を分母とする１人当たりの消費額は約３６００円と推計されている。

	年間消費額（千円）	（前年比）	宿泊費（千円）	（構成比）	飲食費（千円）	（構成比）	土産費（千円）	（構成比）	交通費（千円）	（構成比）	入場料等（千円）	（構成比）	その他（千円）	（構成比）	1人当り（円）	（前年比）	観光客数（千人）	（前年比）
H23	26,303,125	93.2%	3,454,468	13.1%	9,485,578	36.1%	7,357,277	28.0%	4,482,804	17.0%	1,202,763	4.6%	320,235	1.2%	3,460	97.4%	7,602.0	95.7%
H24	27,839,740	105.8%	4,432,611	15.9%	9,689,169	34.8%	7,495,198	26.9%	4,549,469	16.3%	1,374,748	4.9%	298,545	1.1%	3,648	105.4%	7,631.7	100.4%
H25	26,701,759	95.9%	4,062,814	15.2%	9,343,477	35.0%	7,213,557	27.0%	4,397,751	16.5%	1,347,988	5.0%	336,172	1.3%	3,613	99.0%	7,390.5	96.8%

２．観光の取組状況

（１）既往計画―第２次唐津市総合計画―

①唐津市のまちづくりの基本理念

・唐津市では、市民、地域との連携により唐津市の均衡ある継続的な発展と新たな時代に対応した魅力的な「唐津」を創造することを目的として、平成 27 年度に第 2 次唐津市総合計画を策定した。
・第 2 次唐津市総合計画は、「基本構想」と「基本計画」で構成されており、「基本構想」の計画期間は 10 年間（平成 27 年度から平成 36 年度まで）、「基本計画」は前期 5 年、後期 5 年としている。
・このなかで、唐津市のまちづくりの基本理念は、次のとおりとしている。

唐津市のまちづくりの基本理念

「市民力・地域力によるまちづくり」

・これは、人口減少、少子化、高齢化が進展していく中で、市民一人ひとりの知恵や発想を最大限に引き出しながら、活発なコミュニケーションを通じてそれらを組み合わせ、創造的な成果へと結びつけていくことを表現している。
・さらに、人口減少時代においては、社会・経済成長の担い手としての高齢者や女性の役割が重要であり、いろいろな経験や知識を持った高齢者や、さまざまな価値観や感性を持つ女性など、全ての市民が年齢・性別にこだわることなく、誇りを持って積極的に発言・行動をできる環境づくりを基本理念にまちづくりを進めていくとしている。

②唐津市が目指すべき将来像

・さらに唐津市は、「市民力・地域力によるまちづくり」を基本理念とし、生活環境や立地、環境等を最大限に活かして、若い世代が将来にわたり住みたいと思い、かつ誰もが住みよいと思うまちづくりを展開するため、平成 36 年度までに唐津市が目指すべき将来像を次のように定めている。

唐津市が目指すべき将来像

「海と緑にかこまれたここちよい唐津」

③観光に関する基本目標と基本施策

・唐津市の将来像を実現していくために、基本構想のなかでは６つのまちづくりの基本目標を掲げ、それぞれについて施策展開を図っていくとしており、観光に関することは、基本目標５として次のように定めている。

観光に関する基本目標

「歴史と文化が輝く観光のまちづくり」

・さらに観光についての基本目標である「歴史と文化が輝く観光のまちづくり」の実現のため、基本計画のなかで、以下のような５つの基本施策が挙げられており、これらの基本施策の下に単位施策として具体的な取組みが位置づけられている。

表２－１－１　基本施策

項　　目	方　　針
基本目標５	「歴史と文化が輝く観光のまちづくり」
基本施策	基本施策１　唐津らしさが輝く交流による観光まちづくり
	基本施策２　文化活動の継承と文化交流の促進
	基本施策３　スポーツ環境の充実とスポーツ交流の促進
	基本施策４　自然、歴史、文化を活かした景観等の整備
	基本施策５　人、物、文化の交流拠点としての港湾の整備

④地域ごとのまちづくりの方向性

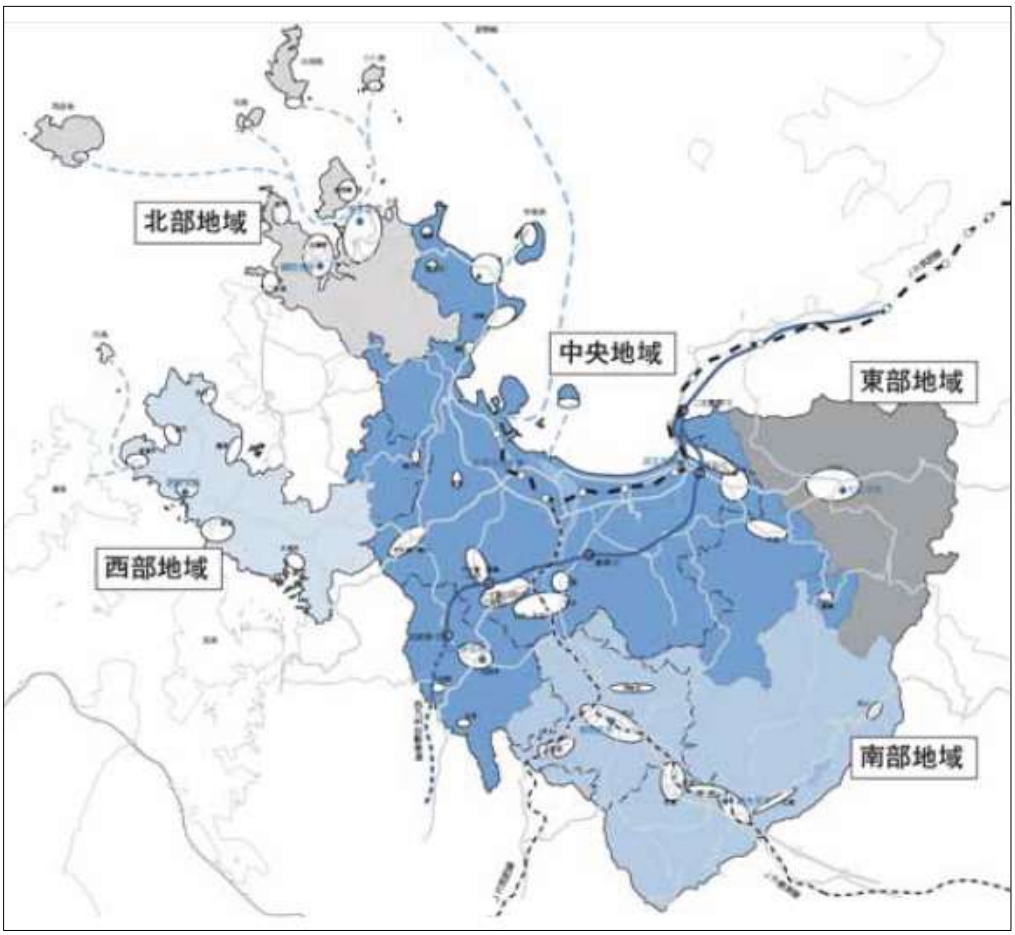
・さらに地域別計画として、地域ごとの特性や課題などを踏まえて、地域ごとにまちづくりの方向性を次ページのように定めている。

・まちづくりの方向性を見ると、全ての地域において、「観光」・「交流」といった言葉が示されており、まちづくりの方向性として「観光」・「交流」を志向している様子がうかがえる。

表２－１－２　地域ごとのまちづくりの方向性

地域	まちづくりの方向性
中央地域	①広域交通網を活かした観光交流や産業振興に寄与する地域づくりを推進
	②地域固有の自然環境や景観と調和した地域づくりを推進
	③貴重な歴史・文化資源を活かした観光交流による地域づくりを推進
東部地域	①県立自然公園の良港な森林・自然環境の保全・活用を推進
	②自然環境等の資源や体験活動を活かした都市・農山村交流を推進
南部地域	①広域交通網を活かした産業振興に寄与する地域づくりを推進
	②観光・交流資源を活かした観光周遊ルートの確立を推進
西部地域	①観光周遊ルートの確立を推進
	②地域資源と食を活かした農漁村交流促進による地域づくりを推進
北部地域	①玄海国定公園に指定された美しい自然環境・景観の保全を推進
	②体験型観光の導入により、地域活力の向上を推進
	③歴史・文化の連携により、観光・交流拠点機能を強化

図２－１－１　　唐津市の地域区分



（２）唐津市および観光協会の観光に関する事業

①唐津市の観光に関する事業

・唐津市における昨年度（平成２６年度）の事業は、下表のような８事業が行われている。これらの事業は大きく２つからなり、ひとつは、国内外における観光宣伝、キャンペーン、宿泊誘致、プロモーションなど、主に観光客を誘致するための事業であり、ひとつは、行催事・イベントなどへの支援、名護屋城などの魅力強化など、主に受入環境の魅力の維持向上を図る事業である。

・これら唐津市の観光事業のうち、今年度（平成２７年度）は、複数の事業が唐津観光協会へ移管された。

・移管された事業は、観光宣伝、唐津くんち振興、東アジア観光プロモーション、観光イベント助成事業、観光関係団体補助である。

表２－２－１　平成２６年度の唐津市の観光事業

事業名	概要
観光宣伝	観光情報を旅行会社やメディア等に対してタイムリーに発信し、集客のための誘致活動や観光宣伝を実施するもの。事業の具体的内容は次のとおり。 ・旅行会社、イベント、メディア等への営業活動 ・観光 PR 用のチラシ、ノベルティグッズ等の製作 ・新聞・雑誌への掲載等による宣伝広告業務など
キャンペーン事業	東京駅創建 100 周年を契機に、当駅の設計者である辰野金吾のふるさと唐津をテーマとした誘客促進キャンペーンを実施するもの。事業の具体的内容は次のとおり。 ・東京駅近郊における誘客 PR 活動、宣伝広告の実施、冬場の誘客促進につなげる PR 活動など
宿泊誘致事業費	市内に宿泊する募集型や受注型の団体ツアー及び合宿、修学旅行等に対し助成を行い、団体宿泊客の誘致を促進するもの。事業の具体的内容は次のとおり。 ・募集型団体ツアーを催行した旅行会社や、大型バス等を利用し、募集型、受注型のツアーを催行した旅行会社を対象とした補助金の給付。 ・１５名以上の団体で唐津市内宿泊延日数３０泊以上した団体を対象とした補助金の給付。
唐津くんち振興	期間限定した案内所、トイレ、駐車場、渋滞回避等の告知、清掃作業、等
東アジアプロモーション事業	九州オルレを利用した誘客と東アジアを中心とした外国人観光客の来訪に備え、受入体制の整備を図るとともに、海外に向けた観光 PR を行うもの。具体的内容は次のとおり。 ・受入環境の整備

	・旅行会社、メディア向け営業活動 ・九州オルレ集客促進事業
観光イベント助成事業	体験、参加型イベントをはじめとする各種イベントに対し補助を行うことで地域活性化及び観光客の誘致を図るもの。次のイベントに対して助成。 ・唐津湾イカダ大会 ・玉島川鮎まつり ・きゅうらぎ川あゆまつり ・村田英雄音楽祭 ・ぼたんと芍薬祭り
観光関係団体補助	観光に関係する団体の取組に対し補助を行うことで団体の健全な運営を図り、地域活性化及び観光客の誘致を図るもの。補助対象の取組は次のとおり。 ・唐津観光協会運営事業 ・浜崎祇園山笠振興会運営事業 ・徳須恵ぎおん山笠製作事業 ・相知くんち山笠作製事業 ・呼子大綱引振興会運営事業
名護屋城跡と陣跡活用事業	名護屋城跡と陣屋活用実施計画に基づき、歴史をテーマとした体験、交流が楽しめる旅行地を目指した取組を展開し観光客誘致の促進と滞在時間の延長に繋げるもの。具体的な事業内容は次のとおり。 ・名護屋城跡での観光案内窓口 ・地域おこし協力隊配置による組織強化

②観光協会の事業

・今年度（平成２７年度)、唐津市から唐津観光協会へ移管されたこれら事業を含む、観光協会の事業は、次ページ表のとおりである。

・唐津市の観光事業から移管された事業は、観光宣伝、唐津くんち振興、東アジア観光プロモーション、観光イベント助成事業、観光関係団体補助である。

・なお唐津市からの複数事業の移管に伴い、事業の円滑な実施が図れるよう唐津市から人的支援を得ている。

表２－２－２　２７年度のからつ観光協会の事業

事業名	概　　要
唐津くんち振興	期間限定した案内所、トイレ、駐車場、渋滞回避等の告知、清掃作業、等
情報発信事業	唐津地区マップ、唐津おもてなし本、相知くんち・唐津くんち・呼子大綱引・唐津やきもんなどのポスター、大綱引ラジオ、あじさい広告、情報発信案内・接遇・誘致人件費、等
旅行者集客プロモーション	旅行者への集客プロモーション、特産品宣伝、呼子マスコミ・朝市振興、ひいな・唐津焼き・花めぐり広告宣伝、等
魅了アップ強化	見帰りの滝を美しくする事業、イカすクリスマス、納涼花火大会、唐津ウォーキングコース推進事業、唐津焼を活用した観光振興事業、等
地域連携	
観光案内所運営事業	観光案内所の運営
着地型観光推進事業（ATA補助）	
観光ブランド強化事業（組織強化）	
唐津観光協議会運営事業	ホームページリニューアル・運営、クラウド・タブレット、協議会運営費、戦略策定等委託費、等。
観光イベント助成事業	唐津湾イカダ大会、玉島川鮎まつり、きゅうらぎ川あゆまつり、村田英雄音楽祭、ぼたんと芍薬祭り、等
観光おもてなし推進事業	
各種関係団体補助	浜崎祇園山笠振興会運営事業、徳須恵ぎおん山笠製作事業、相知くんち山笠作製事業、呼子大綱引振興会運営事業、等
観光宣伝費	NEXCO 西日本お国自慢スタンプラリー、唐津ガイド&マップ刷新、唐津観光ＰＲ有田町、ＲＫＢラジオ唐津観光情報放送業務、佐賀県観光連盟との合同セールス　東名阪、等
東アジア観光プロモーション事業	東アジア観光プロモーションのための言語対応スタッフ雇用
浜崎祇園山囃子保存会館指定管理	指定管理者への管理委託料
旧唐津銀行維持管理費	維持管理の委託料

（３）人材育成の取組

①過去の取組み―ルネッサンス松浦、唐津・東松浦５０人会―

・平成８年に唐津市は、安塚町（新潟県）、井波町（富山県）とともに、社団法人日本観光協会（当時）主催による第３回優秀観光地づくり賞を受賞している。
・この受賞３地域による観光地づくりの取組を紹介する場として、平成８年１１月に都内（アイビーホール青学会館）にて、’９６観光地づくりフォーラム－観光地づくりと人づくり－が開催された。
・このフォーラムのなかで、唐津市は当時の唐津市観光課長から、観光地づくりに取り組む「ルネッサンス松浦、唐津・東松浦５０人会」についての紹介があった。
・「ルネッサンス松浦、唐津・東松浦５０人会」の概要について、同フォーラムの記録集から整理すると次のとおりであり、こうした取組の結果、②、③、④の成果が生まれたことが記されている。

「ルネッサンス松浦、唐津・東松浦５０人会」の概要

・「ルネッサンス松浦、唐津・東松浦５０人会」は、当時の「唐津・東松浦広域市町村圏組合」からの参加を募り結成した。
・構成メンバーは、行政職員、民間事業者、学生、芸術家、議員などであった。
・同会では、会費制により毎月１回の定期的な勉強会を開催した。
・勉強会では、新聞記者、医者、情報誌関係者を招聘しての話をうかがった。
・また伊万里など近隣との意見交換会も開催した。
・この意見交換会では、唐津の持つよさの再発見と近隣のまちについて学んだ。

「福岡・唐津新都市圏フォーラム」の開催（昭和６３年８月～１１月）

・「福岡・唐津新都市圏フォーラム」は、当時の唐津市長が福岡、および福岡～唐津までの自治体に呼び掛けて開催したフォーラムである。
・このフォーラムでは、「行政主導のもと民間を巻き込んだ新しい地域づくりの一つのあり方を模索したものとして、新しいリゾート哲学のあり方、唐津方式とは何か」を話し合った。

「唐津の町づくり」冊子の作成

・上記フォーラムのまとめとして、「唐津の町づくり」冊子を作製した。
・この中では次のようにまとめている。

【新しいソフトの作成】
・手作りで本物のソフトを作りましょう
・情報発信をやりましょう　など

【ハード面（唐津東松浦全体の地域を浮揚されるにはどういう戦略が必要か）】
・海の活用
・新福岡都市圏構想のなかに入れてもらおう
・主体的な創造的な地域運動を継続していこう　など

地域情報発信

・５０人会のメンバーがそれぞれの場所でいろいろなイベントを起こした。
・たとえば、「虹の松原春祭り」を開催し、年１回国道の全面歩行者天国を実現した。

参考　　唐津市観光課長（当時）松尾　公志氏　談

・「人づくりについて言えば、１０年以上かかっていますが、『学ぶ』段階から『実践』の段階に入ったかなと思っています。」
・「１０年なら１０年で一区切りつけて、新しい世代へ受け継ぐべきではないかと思っています。」
・「どうやって受け継ぐかは、もう一度新しく議論をしなおしてやっていくべきだろうと思います。」
・「継続というのは非常に難しいもので、もう一度原点で考えて、いろいろなグループを作っていくのも一つの方法ではないかと思っています。
・「５０人会の勉強会やフォーラムは、観光地づくりと共に人づくりではなかったかと思っています。」

９６観光地づくりフォーラムー観光地づくりと人づくりー記録集より

②現在の取組―からつ観光協議会―

・唐津市は、昨今の観光客の入込状況をはじめ、観光戦略なき中での「ばらばらな動き」(「魅力ある観光地域づくり推進モデル事業」現状報告書より)、さらには佐賀県観光戦略の方向性を鑑み、平成２６年８月に「からつ観光協議会」を立ち上げている。

・からつ観光協議会は、市民、行政、産業界で構成された協議会で、オール唐津で観光振興に取り組むためのプラットフォームとして位置づけられている。

・この協議会は、３つのチームに分かれており、それぞれ次のような役割を担っている。

表２－３－１　唐津観光協議会を構成するチームと役割

チーム名	役　　割
キーパーソンチーム	観光戦略の策定（戦略の決定と改訂） 市内事業者の連携強化の働きかけと観光振興の方向性を検討する。
プロジェクトチーム	観光戦略の骨子の策定。 観光未来塾チームから出されたアイデアを基に戦略骨子を検討する。
観光未来塾チーム	観光のアイデア出しと担い手の育成。 次世代を担う各種団体若手メンバーにて、これからの唐津を考える。

【からつ観光協議会会議からの意見】

・これらのチームでは、既に会議を開催しており、唐津市における観光の現状・状況、今後の取組などについての基本的考え、具体的な取組内容などについて、多くの意見が出されている。

・これまでの会議内容について、議事録に基づき、整理すると次のようになる。

●からつ観光協議会　観光未来塾チーム会議より

・第１回会議　平成２６年９月１９日

・出席者数：１７名

・会議の方法：検討テーマ別のグループ分けによる意見交換

・検討テーマ

①唐津市全体が一丸となって観光に取り組むには
②外国人に、より多く唐津を訪問してもらうためには
③観光客が唐津に求めているものとは
④唐津の１０年後の観光地としての姿とは

テーマ①：唐津市全体が一丸となって観光に取り組むには

※テーマが抽象的すぎるため、「日頃感じている観光とは何か」について話し合った。

現状・状況	基本的考え	具体内容
・現状ではそれぞれでやっている。 ・それぞれの目標、目指すところが違う。	・協力によって、自分のところの収益につながる仕組みを作る必要がある。 ・熱意や情熱だけでなく、ビジョンを創る必要がある。	―

テーマ②：外国人に、より多く唐津を訪問してもらうためには

現状・状況	基本的考え	具体内容
・受け手側の準備・整備がまだ行き届いていない。 ・言葉の壁により、コミュニケーションがとれない。 ・来たら嫌な顔になったりしている。	・まずは日本の方に来てもらいたい。 ・受け入れたいという気持ちがあれば伝わる。 ・外国人の訪問に対して整備が必要。 ・唐津にしかないものの情報を出していくとよい。 ・来たら嫌な顔～そこから改善するべき。	・ＷｉＦｉの整備にもっと取り組んだほうがよい。 ・ボランティアガイドの拠点があるとよい。 ・観光協会で研修の機会を増やしていただきたい。

テーマ③：観光客が唐津に求めているものとは

現状・状況	基本的考え	具体的内容
・情報発信がうまくできていない。	・唐津でしかないもの、唐津でしか体験できない場所などを多くの方に情報発信していく。 ・情報発信するためには、情報共有をするべき。	―

テーマ④：唐津の１０年後の観光地としての姿とは

※唐津に来て、どこかで楽しんで帰ってもらうためには・・・で話し合った。

現状・状況	基本的考え	具体的内容
－	・地元の祭やイベントなどに参加してもらい、唐津のブランドを立ち上げていく。 ・唐津最大の祭である唐津くんちをもっと利用していく。 ・唐津に旅行しやすいプランの確立。 ・個人でも団体でも楽しんでいただけるプランの作成。 ・新規産業、雇用の充実	・地産地消で唐津ブランドを唐津焼きで提供 ・自然を活かした滞在型のプラン

その他

意見	回答
・この会議のゴール（目的？）が見えていない。 ・会議で出た意見をどのように反映していくのかわからない。	・この協議会は、唐津の観光の戦略を考えることが目的の会議である。 ・普段感じていることを話し合っていただきたい。 ・観光が好き、唐津が好きだと思うことを共有していただきたい。 ・立場、立場の役割を考えていってもらいたい。 ・心の改革が必要である。 ・いろいろなプログラムなど提案を市が補助金として予算立てしたり、観光協会が事業化するなどの方法がある。 ・みなさんが協同で実現できる取組を続けていってほしい。

●からつ観光協議会　観光未来塾チーム会議

・第２回会議　平成２６年１０月２１日

・出席者数：１３名

・会議の方法：出席者全員による意見交換および、意見書き出しによる意見交換

・検討テーマ（議事録より）

①提案事項（観光未来塾の進め方について） ②「短期」テーマ審議について ③まとめ・次回会議について

テーマ①：提案事項

基本的考え
・会議で出したものを具体的なものにしていきたい。 ・長いスパンでやっていくと思っている。 ・自分たちが今できることは何か話し合う必要がある。

テーマ②：「短期」テーマ審議について（自分たちが今、考えられることについて）

短期	中期	長期
・グルメクーポンの作成（冊子版の販売など） ・ＪＲウォーキングと絡めた商品づくり。 ・鉄道の日のイベントに芸能人を呼ぶ。 ・ラッピング列車を唐津線に走らせる。 ・唐津くんちの無礼講に参加できる仕組みづくり（マップの作成）。 ・未盧館での古代人体験や収穫体験。 ・唐津でしか体験できないものの磨き上げ。 ・ポスターやチラシのサイズの統一化。 ・そのイベントだけのポスターに、他のイベントの告知も入れる仕組み作り。 ・イベント開催日時情報の共有化。 ・長期滞在型プランの確立。	・テレビやＪＲとのタイアップにより、唐津のディープな場所を、有名人などに巡ってもらい宣伝してもらう。 ・大学の誘致。 ・唐津市ふるさと会館アルピノのホールの活用。 ・日本三大松原のひとつである虹の松原のサイクリングコースの整備。 ・子供たちの観光マイスターなど、唐津の観光を知ってもらい、イベントに参加してもらうような育成事業の開催。 ・呼子朝市の出店者数の増加。 ・観光地へのアクセスの充実（観光客向けの乗り物など）。 ・セット券やレンタルサイクルなどによる町なか周遊	・九州の歴史をＪＲで周遊するプラン作り。 ・スタンプラリーの実施。 ・統一看板の整備による、おもてなし。 ・観光列車の運行。 ・クルーズトレイン「ななつ星ｉｎ九州」の停車駅の実現。 ・アンテナショップの実現。 ・唐津の町中を期間を決めたライトアップ。 ・外国人の誘客と受け入れ体制づくり。 ・施設とのセット券の販売。 ・定期観光バスの復活。 ・ラッピングバスの運行。 ・景観に統一感のある町並みの実現。 ・宣伝していく。 ・テーマに応じたメンバーで話し合う。 ・１０年度もこれが唐津の品

・地域商工会や婦人会などを使ったイベントなどの開催。 ・漁協とのタイアップ。 ・種まきから収穫までの体験を行い、バス会社とタイアップし広告バスを出す。	プランの充実など、交通手段の手軽な利用の実現。 ・お土産の個包装と、見た目の美しさ、食べ比べセットの実現。 ・旅館組合とのタイアップによる宿泊客向けの寿司握りなど食の体験の開催。 ・自転車道路の充実。	物だとわかるものの開発。

その他意見

・唐津に少しでも長く居てもらえるような工夫をする。
・発信力が弱いので、テレビなどを使って情報を発信していく必要がある。
・おもてなしの観点は、フェイスブックなどで情報発信をしていくところから直していくのが良い。
・唐津にはこれといった名物がないのが現状。
・漁協は新鮮な魚を他の方とコラボして提供していきたい。唐津は魚がおいしいので寿司をメインにしていく。
・唐津は関係機関とまだうまく連携が取れていないように思う。
・この未来塾は、突拍子もないことを企画提案していくところではなかったか。

まとめ・次回会議について（決定事項）

・ラッピングバスは宣伝効果も強い、との考えから、未来塾の成果の一つとして唐津市の新年度予算に計上することとなった。

●からつ観光協議会　観光未来塾チーム会議

・第３回会議　平成２６年１１月１８日

・出席者数：１６名

・会議の方法：出席者全員による意見交換および、意見書き出しによる意見交換

・検討テーマ（議事録より）

①ホームページによる効果的な情報発信について ②唐津のサインイメージについて ③その他

テーマ①：ホームページによる効果的な情報発信について

・「サインもホームページも唐津のイメージがどうなのか。唐津のイメージの共有をしてもらいたい。」との事務局からの提案から、以下のような意見交換がされている。

唐津のイメージについて

唐津のイメージ	基本的考え
・唐津くんち、唐津城、虹の松原。 ・クリアファイルの絵は唐津城と虹の松原。 ・色では、青、緑、白。 ・山あり海あり歴史あり全てがそろって唐津。 ・海があって、山があって、食のイメージが強い。 ・唐津は大人の街だと思う。 ・ゆっくりした時の流れを感じる旅の街。 ・本物がある街だと思う。 ・唐津湾、松原のイメージがある。	・もっと広い目線で考えていくべき。 ・唐津のイメージをおしゃれに詰め込んだものを作れないか。 ・お金を使わせるシステムを構築してイメージを作っていくのがよい。 ・１０年後に唐津というイメージがＰＲできるようにしていきたい。

ホームページによる効果的な情報発信について

基本的考え	具体的内容
・ホームページを一発でわかるようにするべき。 ・唐津のイメージをおしゃれに詰め込んだものを作れないか。 ・お金を使う気を満足させてあげられるホームページを。 ・お土産を買わせる仕組みをつくる。 ・ゆったり流れる時間をイメージしやすいホームページにしたらよい。 ・人目を引くようなホームページにしていきたい。	・わかりやすい歩くルートの掲載。

その他

この協議会への期待	各種取組案など
・この協議会ではいろいろな発想を出してもらいたい。模範解答ではない発想を出してもらいたい。 ・百点満点では他の市町村と差別化できない。	・唐津全体が美術館のようにできないか。 ・スマホから情報が入手できるようにしたらどうか。 ・福岡へプロモーションをしていく。 ・全体でＣＭを打てないか。まず唐津に来させる仕組みをつくる。

テーマ②：唐津のサインイメージについて

具体化のための方策	具体案
・カーナビが普及しているので新たなサイン看板はいらないとの意見もある。 ・唐津がどういう観光地になるのか、戦略をどこに持って行くのかを先に議論した方がよい。 ・唐津のイメージができていれば、関係機関へも看板イメージの話もしやすい。 ・唐津に最初に来たいと思わせるものが何か、を考えなければならない。 ・外から見た唐津はどうなのか、聞いて見てもよい。	―

テーマ③：その他（キャンペーンのあり方について）

対象とするエリア・場所について	展開の方法などについて
・観光キャンペーンのチラシは、東京ではなく福岡でもよいのではないか。 ・関西や関東よりも、近くの１００万都市福岡から売り込んでいかないと人が来なくなる。 ・福岡空港から唐津にくるにあたり、ＪＲ駅にアクセスの案内を出したらどうか。とりわけ外国人にはわからない。	・佐賀空港は若い人をターゲットに、福岡空港はグローバルなターゲットに集客を行ってもよい。 ・外国人旅行者が旅行コースを作るときは福岡が出発点になり、そこから唐津へとなるので、横の連携を図る必要がある。 ・告知や認知度についてどうするべきか、もっと考える必要がある。

【からつ観光協議会　プロジェクトチーム会議】

・第１回会議：平成２６年１０月３日

・出席者数：１４名

・会議の方法：出席者全員による意見交換

・テーマ

①チームリーダーの選出と観光未来塾チーム会議の報告

・チームリーダーの選出と観光未来塾チーム会議の報告の後、次のような意見が出された。

観光未来塾チーム会議報告後の意見など

あり方などについて	目的について	検討テーマについて
・会の進め方が決まっていないため、検討した方がよい。 ・第一線で頑張っていた人ばかりなので、人選を考えた方がよい。 ・観光協会が下から練り上げていったほうがよい。 ・若い人たちを集めて話し合うことも必要なのではないか。 ・若い人たちも動いていけるようにしていかなければならない。 ・未来塾の会が組織として一番輝いていなければならない。 ・楽しく会議に出席してもらえるようにしていくのがいい。 ・連携の強化が必要。 ・新しい形を作っていってはどうか。 ・未来塾は実務・実働部隊ではない。それぞれの分野で考えていく。	・からつ観光協議会は、唐津の戦略をつくることであるため、まずは新しい戦略をつくり、その戦略を分解して下におろした方がよい。 ・からつ観光協議会は、唐津の観光をそれぞれやっていたものを一つにまとめて一丸となってやっていくようにするのが目的。なおかつ戦略的に動いていけるようにする。	・若い人の（抱えている？）問題点などを吸い上げていってもよい。 ・日本の中で唐津の位置づけを、しっかりとしていってほしい。 ・唐津のブランド力を考えて、１冊の本にするなどしたらどうか。 ・テーマが漠然とし過ぎている。 ・おもてなしの仕方についても考えていけば発展する。

その他

唐津の現状	基本的考え	具体案
・唐津には歴史がたくさんあるが情報発信が下手。	・唐津は宿泊型になるようになってほしい。 ・目玉商品をつくって宣伝するような連携が図れるとよい。 ・観光資源とバスは密接な関係にあるので連動していきたい。	－

●からつ観光協議会　プロジェクトチーム会議

・第２回会議　平成２６年１１月１３日

・出席者数：１０名

・会議の方法：出席者全員による意見交換

・テーマ

①観光未来塾チーム会議報告 ②（一社）唐津観光協会からの提案

テーマ①：観光未来塾チーム会議報告

・同会議報告後に次のような意見が出された。

同会議報告後の意見

観光未来塾チーム会議の報告内容について	観光未来塾チームについて
・短期・中期・長期として情報発してもよい。 ・ラッピングバスはよいと思う。 ・ラッピングバスに記載する絵も観光未来塾チームで考えてもらいたい。 ・ホームページのデザインについても観光未来塾で検討してもらいたい。 ・観光アプリを動画にして取り込むことも検討したらどうか。	・マスコミ関係者も入れた方がよいのではないか。 ・具体性のある何かを未来的・長期的に考えていった方がよい。 ・若い考えで独自性の面白い、度胆をぬくようなアイデアを出してもらいたい。 ・呼子鎮西で真サバを使ってＰＲしている人たちの意見を聞きたい。 ・セミナーや勉強会などを、県も含めて開催していくような形がとれればよい。 ・観光連盟とも協力していく。

・賛成多数によりラッピングバスが承認され、この提案をキーパーソン会議に上げることとなった。

テーマ②：（一社）唐津観光協会からの提案（野外広告看板について）

・同提案後に次のような意見が出された。

提案後の意見

現状	方針
・観光協会として撤去を言われている看板が４つある。	・観光唐津をどういう将来に描いていくのかが大事であり、それによっても変わってくる。 ・野外広告看板についての審議を観光未来塾チームに投げかける。

３．総合診断

（１）地域の強みおよび弱み

・唐津市において、魅力ある観光地域づくりを推進していく観点から、地域の強みおよび弱みについて、次のように明らかにした。なお、地域の強みは●、弱みは▲にて表記している。

①観光を取り巻く状況より

【観光特性（要約）】

・唐津市は、広域観光移動ルート上に位置していることや、周辺都市間との容易なアクセス性などの立地特性を有している。
・また多様な自然風景、地域ならではの歴史・文化など唐津らしさ・唐津ならではの観光資源が豊富に存在している。

【観光客の状況（要約）】

・唐津市には、日帰り観光客数が約７００万人、宿泊観光客数が約４４万人あるが、ここのところ伸び悩んでいる。
・日帰り観光客は、「唐津くんち」開催の１１月に多く、宿泊観光客は８月に最も多い。
・唐津市に訪れる観光客は、佐賀県内および福岡県を発地とする観光客が６割を占めている。
・観光地点別の入込数は、唐津城が最も多く約１０万人、次いで観音の滝が９万６千人である。
・行催事は、「唐津くんち」が約５９万人と突出しており、次いで九州花火大会が２３万人である。
・観光消費額は、平成２５年で約２６７億円であるが、前年より４％減少している。
・消費額の割合は、飲食費が３５％、土産費が２７％、交通費が１６％、宿泊費が１５％。
・観光客総数における１人当たりの消費額推計値は約３６００円である。

・以上のような観光を取り巻く状況から見た、地域の強みおよび弱みは、次ページのとおりである。

【観光特性より】

①立地特性より

●周辺都市から何度も訪れやすい位置にある。

●周辺地域へ出掛けるのに便利な立地位置にある。

▲宿泊滞在地としての性格が弱い。

②自然特性より

●本市の多様な自然を活かすことが可能である。

③観光資源より

●観光資源の豊富さ・幅広さを背景とした、豊富な・幅広い人々（人材）の存在。

●観光資源の豊富さ・幅広さは、さまざまな取組に活用できる。

【観光客の状況より】

①日帰り観光客数の状況より

●日帰り観光客から高い支持を得ている。

▲唐津市中心部などへの賑わいや活性化への結びつきが弱い。

②宿泊観光客数の状況

●一定の宿泊施設を有しており、宿泊観光客の受入力を有している。

▲季節による変動が顕著であり、通年での誘客力が弱い。

③発地別観光客数の状況

●佐賀県内および福岡県など近隣周辺地域からの支持を得ている。

④観光地点別入込数

●相当数が訪れている観光資源・施設や行催事の状況を活かすことが可能である。

⑤観光消費額

●豊富な・幅広い観光資源を背景に、観光客による一定の消費が毎年ある。

②観光の取組状況より

【既往計画―第２次唐津市総合計画―（要約）】

・唐津市の第２次唐津市総合計画では、「市民力・地域力によるまちづくり」をまちづくりの基本理念として、唐津市が目指すべき将来像を「海と緑にかこまれたここちよい唐津」としている。

・観光に関する基本目標は、「歴史と文化が輝く観光のまちづくり」としており、そのための基本施策として、交流、継承、充実、景観整備、港湾整備など５つの基本施策を設定している。

・さらに地域ごとのまちづくりの方向性として、全ての地域において、「観光」・「交流」を志向している。

【唐津市および観光協会の観光に関する事業（要約）】

・唐津市では、観光客を誘致するための事業および受入環境の魅力の維持向上を図る事業について、幅広く取り組んでいるが、事業の迅速性や効果性などを考慮して、平成２７年度は、複数の事業を観光協会へ移管した。

・観光協会では、唐津市から移管された複数の事業をはじめ、ATA 事業、旅行者への集客プロモーション、情報発信事業など多肢に渡る事業を実施している。

【人材育成の取組（要約）】

・過去の取組みには、「ルネッサンス松浦、唐津・東松浦５０人会」などによる勉強会の開催や、虹の松原を活用した観光まちづくりイベント開催などがある。

・現在は、佐賀県観光戦略に基づき、観光関係団体、企業、行政などからなる「からつ観光協議会」を立ち上げ、会議を重ねており、その中から観光まちづくりへ向けた提案なども出されている。

・以上のような観光の取組状況から見た、地域の強みおよび弱みは、次ページのとおりである。

【既往計画（第２次唐津市総合計画）より】

①唐津市のまちづくりの基本理念「市民力・地域力によるまちづくり」

●同基本理念に即した活動がしやすい。

②唐津市が目指すべき将来像「海と緑にかこまれたここちよい唐津」

●同基本理念に即した活動がしやすい。

③観光に関する基本目標と基本施策「歴史と文化が輝く観光のまちづくり」

●同基本理念に即した活動がしやすい。

④地域ごとのまちづくりの方向性

●「観光」・「交流」の方向性に即した活動がしやすい。

【唐津市および唐津市観光協会の観光に関する事業より】

①唐津市の観光事業より

●事業予算を背景に、観光振興を推進していく力を有している。

②観光協会の事業より

●唐津市の観光振興を牽引する団体として、唐津市、観光関係団体、市民から強く期待されている。

●唐津市の観光振興を牽引する力を有する人材が数多く在籍している。

【人材育成より】

①過去の取組み

●人づくりに取り組んだ先人の存在は、今後の新たな取組への理解や協力などを得やすい。

②現在の取組み

●観光からのまちづくりを担う多くの人材の存在は、強みである。

●協議会のメンバーどうしの親密なつながりは、観光からのまちづくりにおいて力強い推進力となる。

（２）課題の抽出と課題解決のための施策

・唐津市の観光資源の状況、観光基礎データ、現地調査、現地関係者のヒアリングなどを踏まえ、今後の観光振興の観点から、課題および課題解決のための施策について、それぞれ次のように明らかにする。

①観光を取り巻く状況から

【観光特性（再掲）】

・唐津市は、広域観光移動ルート上に位置していることや、周辺都市間との容易なアクセス性などの立地特性を有している。

・また多様な自然風景、地域ならではの歴史・文化など唐津らしさ・唐津ならではの観光資源が豊富に存在している。

【課題】

・唐津市の立地特性を活かした、観光客の再来訪率の維持・向上。
・新たな企画の開催などによる宿泊・滞在需要の掘り起し。
・周辺観光地との違いの顕在化。
・観光資源の豊富さ・幅広さゆえに、活用にあたっての優先性の考慮。

【課題解決のための施策】

・観光資源のさらなる魅力の向上。
・新たな観光資源の創出。
・観光資源の情報発信の維持・強化。
・地域の意向、訴求力、求心力、効果性などを考慮した、活用の優先順位の設定と段階的な活用。など

【観光客の状況（再掲）】

・唐津市には、日帰り観光客数が約７００万人、宿泊観光客数が約４４万人あるが、ここのところ伸び悩んでいる。
・日帰り観光客は、「唐津くんち」開催の１１月に多く、宿泊観光客は８月に最も多い。
・唐津市に訪れる観光客は、佐賀県内および福岡県を発地とする観光客が６割を占めている。
・観光地点別の入込数は、唐津城が最も多く約１０万人、次いで観音の滝が９万６千人である。
・行催事は、「唐津くんち」が約５９万人と突出しており、次いで九州花火大会が２３万人である。
・観光消費額は、平成２５年で約２６７億円であるが、前年より４％減少している。
・消費額の割合は、飲食費が３５％、土産費が２７％、交通費が１６％、宿泊費が１５％。
・観光客総数における１人当たりの消費額推計値は約３６００円である。

【課題】

・多くの観光客の訪問を、唐津市中心部などの賑わいや活性化へ結びつける方策の検討。
・宿泊観光客数増加との相乗効果が期待できる方策の検討。
・経済効果の認識を前提とした、観光消費額の増加策の検討。

【課題解決のための施策】

・観光地点別の入込数を活かした、多様な効果の周辺への波及。
・日帰り・宿泊観光客の、唐津市中心部などへの多様な誘導方策の実施。
・特産品はじめ飲食店など、唐津市における買い物・飲食などの消費行動を誘発する質の高い情報の発信。など

②観光の取組状況から

【既往計画―第２次唐津市総合計画―（再掲）】

・唐津市の第２次唐津市総合計画では、「市民力・地域力によるまちづくり」をまちづくりの基本理念として、唐津市が目指すべき将来像を「海と緑にかこまれたここちよい唐津」としている。
・観光に関する基本目標は、「歴史と文化が輝く観光のまちづくり」としており、そのための基本施策として、交流、継承、充実、景観整備、港湾整備など５つの基本施策を設定している。
・さらに地域ごとのまちづくりの方向性として、全ての地域において、「観光」・「交流」を志向している。

【課題の抽出】

・基本理念、目指すべき将来像、観光振興の基本目標を実現するための人材発掘・育成。
・唐津市が目指すべき将来像「海と緑にかこまれたここちよい唐津」の実現へ向けた、具体的取組の実施。
・観光に関する基本目標である、「歴史と文化が輝く観光のまちづくり」へ向けた、具体的取組の実施。
・各地域にふさわしい、それぞれの「観光」・「交流」の具体化。

【課題解決のための施策】

・基本理念、目指すべき将来像、観光振興の基本目標を実現するための行政、事業者、市民、地域などによる情報交換・意見交換の場の設定をはじめ、各種事業の実施などを通した、観光振興を牽引する人材の発掘・育成。
・基本理念、目指すべき将来像、観光振興の基本目標を実現するための観光に関する体系的かつ実効性ある観光振興基本計画の策定。
・観光振興基本計画に基づく、基本理念、目指すべき将来像、観光振興の基本目標を実現するための具体的事業の実施。
・各地域の状況や可能性などを踏まえ、各地域に支持されるような「観光」・「交流」の具体的事業の実践。など

【唐津市および観光協会の観光に関する事業（再掲）】

・唐津市では、観光客を誘致するための事業および受入環境の魅力の維持向上を図る事業について、幅広く取り組んでいるが、事業の迅速性や効果性などを考慮して、平成２７年度は、複数の事業を観光協会へ移管した。

・観光協会では、唐津市から移管された複数の事業をはじめ、ATA 事業、旅行者への集客プロモーション、情報発信事業など多肢に渡る事業を実施している。

【課題の抽出】

・多くの事業の円滑かつ・効果的な実施。

【課題解決のための施策】

・市、観光協会、関係団体などとの強固な連携体制の確立。

・観光協会における組織力のさらなる向上。

【人材育成（再掲）】

・過去の取組みには、「ルネッサンス松浦、唐津・東松浦５０人会」などによる勉強会の開催や、虹の松原を活用した観光まちづくりイベント開催などがある。

・現在は、佐賀県観光戦略に基づき、観光関係団体、企業、行政などからなる「からつ観光協議会」を立ち上げ、会議を重ねており、その中から観光まちづくりへ向けた提案なども出されている。

【課題の抽出】

・先人の取組み内容の確認と、継続や発展についての課題の顕在化。

・唐津市の現状を踏まえて、今日、必要とされている具体的人材の顕在化と発掘・育成。

・協議会の効率的・効果的な運営。

・観光まちづくりへ向けた提案などを活かした、協議会による実践、継続、展開。

【課題解決のための施策】

・観光まちづくりの取組実践者などからの聴取を踏まえた、過去の取組の検証、必要とされている具体的人材の顕在化。

・提案内容の検討、提示、分類、整理、合意形成など、段階的な時間割による協議会の運営。

・具体的なテーマ設定による部会ごとのテーマの深化と実践。

（３）事業計画策定のための今後の方向性

―「地域の意識改革と唐津のニューリーダー育成」の観点から―

・唐津市の観光資源の状況、観光基礎データ、現地調査、現地関係者のヒアリングなどを踏まえ、事業計画策定のための今後の方向性について、「地域の意識改革と唐津のニューリーダー育成」の観点から、次のように提案する。

①地域の意識改革

既に設立された「からつ観光協議会」の基に、具体的なテーマを設定した部会による検討、具体的事業の実施など、効率的・計画的・発展的に展開していくことが重要である。

・唐津市は、昨今の観光客の入込状況をはじめ、観光戦略なき中での「ばらばらな動き」(「魅力ある観光地域づくり推進モデル事業」現状報告書より)、さらには佐賀県観光戦略の方向性を鑑み、からつ観光協議会を立ち上げている。

・からつ観光協議会は、観光関係団体、企業、行政などからなり、オール唐津で観光振興に取り組むためのプラットフォームとして位置づけられている。

・地域の意識改革においては、こうした動きを活かし、今後は具体的なテーマを設定した部会による検討、具体的事業の実施など、計画的・発展的に展開していくことが効果的である。

②唐津のニューリーダー育成

企画をまとめたり、適切な人材に呼び掛けたり、団体などを横断的につなげたりするような、コーディネーターの育成に焦点を当てることで一定の成果が期待できる。

・唐津には、それぞれの観光対象となる資源を「守る」、「支える」、「育てる」、「継承」する人々（人材）が豊富に存在していることが指摘されている。それは観光対象となる資源が豊富に存在していることからもうかがえる。

・ところが観光まちづくりに向けた新たな取組を実施するときに、企画をまとめたり、適切な人材に呼び掛けたり、団体などを横断的につなげたりするような「リーダー」、すなわち「コーディネーター」が、極めて少なく、また育たちにくいことが現地ヒアリングから明らかにされた。

・これは「魅力ある観光地域づくり推進モデル事業」計画書の目標に記されている、育成するリーダー（各種関係団体との連携調整や事業実施の現場統率が出来るなど全体をグリップできるようなリーダー像）とも合致すると判断できる。

・そのため、唐津のニューリーダー育成にあたっては、「各種関係団体との連携調整や事業実施の現場統率が出来るなど全体をグリップできるようなリーダー像」を唐津におけるニューリーダー（コーディネーター）像として、その育成に焦点を当てることで一定の成果を得ることが期待できる。

③事業計画の策定と事業の実施におけるテーマ設定

地域の意識改革と唐津のニューリーダー（コーディネーター）育成の両テーマの掛け合わせによる事業計画の策定と事業を実施する。

・地域の意識改革にあたっては、唐津市における観光客の現状把握をはじめ、観光まちづくりにおける潜在的な可能性の把握に基づく、実践的な取組により効果が期待できる。

・また唐津市のニューリーダー（コーディネイーター）育成においても、実践的な取組による効果が期待できることから、ニューリーダー（コーディネーター）の育成と地域の意識改革を掛け合わせた取組を実施することにより、効率的に目標の実現を図ることが望まれる。

④事業計画の策定と事業実施を通した成果

唐津におけるリーダー像（コーディネーター像）の設定と、その実現のための事業計画を策定。

・「魅力ある観光地域づくり推進モデル事業」計画書のなかでは、リーダーの数値的目標を、２年後　５～１０人、５年後　２０～３０人と記されている。

・今後とも継続的にニューリーダー（コーディネーター）の人材育成を図るためには、前掲のリーダー像（コーディネーター像）の実現のための事業計画を策定することが不可欠である。

・そのため事業計画に盛り込む各種行催事・イベントなどの企画開催においても、唐津におけるニューリーダー（コーディネーター）育成のなかで、求められるリーダー像（コーディネーター像）実現のためのどこの部分（あるいはどことどこの部分）に位置づけるのか、明確にしておくことが不可欠である。

事業の実施を通して、同ニューリーダー（コーディネーター）育成のノウハウの構築を図る。

・そして事業計画に基づく事業の実施を通して、唐津におけるニューリーダー（コーディネーター）育成において、汎用性のあるニューリーダー（コーディネーター）育成のノウハウの構築を図ることが重要である。

・ニューリーダー（コーディネーター）育成をテーマとした、本モデル事業による成果は、同じようにコーディネーターの人材育成を課題とする他の地域において、ひとつのモデルとしての汎用性が期待できる。

⑤本モデル事業における協議会の将来的方向性

「コーディネーター」を仕事として担うことができるとともに、「コーディネーター」が育つための組織づくりを志向する。

・現地ヒアリングから、「コーディネート」する人材が、極めて少ない、または育たない背景には、「コーディネート」の仕事に対して、仕事としての認識が希薄であることなどが指摘されている。

・既に観光地としての認知度が高い唐津市において、第 2 次唐津市総合計画に基づく観光地域づくりへ向けた、新たな段階へ移行するためには、企画をまとめ、団体などを横断的につなげ、豊富な観光資源を担う人材に適宜呼びかけ、束ね、活かすような「コーディネート」する人材（いわゆるコーディネーター）の重要性・必要性は、今後高まるものと考えられる。

・そのため、「コーディネーター」を仕事として担うことができるとともに、複数の「コーディネーター」が育つための組織づくり志向することが重要である。

⑥モデル事業における“教材”

モデル事業における地域の意識改革とニューリーダー育成においては、地域に賦存する観光資源を「教材」として活用する。

・地域の意識改革やニューリーダー育成においては、地域に賦存する観光資源を“教材”として活用することで、唐津ならでは・唐津らしさのある新たな取組の具体化をはじめ、地域への訴求力や求心力が高まることが期待でき、目的実現への効果が期待できる。

・そうしたなかで、唐津市においては地域内外に周知されている「唐津焼き」を“教材”とした取組を通して、地域の意識改革やニューリーダー育成を実施することが可能であり、それにより一般的な勉強会や研修会などとは異なる、実戦的かつ効果的なモデル事業の実施が期待できる。

魅力ある観光地域づくり推進モデル事業

佐賀県唐津市実施報告書

平成 29 年 3 月発行

編集発行　公益社団法人日本観光振興協会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-1-1
虎の門三丁目ビルディング６階　TEL03-6435-8331
印刷製本　株式会社フジプランズ

©日本観光振興協会
本書の全部または一部の無断転載、複写、および複写物の配布を禁じます。